

第3部 職業体感型教育モデル開催マニュアル

3-1 次世代人材職業体験推進事業

(中学生を対象とした職業体験講座の開催)

I	事業の概要	119
II	アンケート調査の結果	122
III	事業の流れ	125
IV	開催マニュアル	126
1	講座の募集（1月）	126
	（1）提供を受ける講座情報	
	（2）職業体験メニュー一覧の作成	
2	事業内容の更新の検討（2月）	127
3	参加専修学校における受入不可能日の確認（3月・以降随時）	127
4	サイトへの掲載（3月）	128
	（1）各種資料の更新	
	（2）掲載する資料	
	（3）事業案内ページのサイトレイアウト	
5	台帳の作成	129
	（1）台帳を作成する目的	
	（2）台帳に登載する事項	
	（3）作業の効率化と入力ミス等の軽減のため台帳に設定する機能	
6	中学校等と専修学校への実施通知	132
	（1）中学校等あて実施通知（3月）	
	（2）専修学校あて実施通知（3月）	
7	中学校からの受講申込み（4月以降）	132
	（1）受講申込書の確認	
	（2）申込内容の台帳への転記	
	（3）参加専修学校への受入可否の照会	
8	参加専修学校における受入可否の検討と回答	134
	（1）参加専修学校における受入可否の検討	
	（2）参加専修学校からの受入可否の回答	
9	中学校への受入可否の回答及び中学校からの追加申込み	135
	（1）中学校への受入可否の回答	
	（2）中学校からの追加申込み	

10 専修学校からの開催状況の報告	136
(1) 開催状況報告書の提出	
(2) 開催状況の確認	
(3) 開催状況の集計	
11 負担金の支払い	137
12 効果測定	137
(1) 事業を利用した中学校に対する調査	
(2) 受講した中学生に対する調査	
(3) 参加校に対する調査	

資料

・令和2年度次世代人材職業体験推進事業実施要領	139
・令和2年度 職業体験メニュー一覧（抜粋）	140
・留意事項「はじめにお読みください」	144
・職業体験講座受講申込書（記入例）	146
・職業体験講座受講申込書記入要領	147
・職業体験講座開催状況報告書（記入例）	148
・職業体験講座受講不可日掲載連絡票（記入例）	149
・事業案内ページのサイトレイアウト（例）	150
・職業体験講座受入可否照会書・回答書	151
・職業体験講座受講可否回答書（受講可）	152
・職業体験講座受講可否回答書（受講不可）	153
・参加中学校へのアンケート結果	154
令和元年度：札幌市外の参加中学校への調査結果	
〃 ：札幌市内の参加中学校への調査結果	
令和2年度：札幌市外の参加中学校への調査結果	
・参加中学生へのアンケート結果	161
・参加専修学校へのアンケート結果	168

I 事業の概要

1 事業の紹介

次世代人材職業体験推進事業（以下「次世代事業」）は、専修学校を会場に中学生を対象とした職業体験を開催することにより、若年者の職業観や勤労観を醸成するとともに、雇用のミスマッチや早期離職を軽減しようとする取組です。

手順は、職業体験講座の受講を希望する中学校からの申込みを受け、専修学校は学校行事の有無、開催する教室や対応教員等の確保の可否などを調整して受講の可否を決定し、当日、中学生が専修学校を訪問して講座を受講する流れとなっています。

1年間の事業の流れは、125ページの「III 令和2年度次世代人材職業体験推進事業の流れ」をご覧ください。

この事業は、職業体験講座の受講機会を得にくい札幌市外の中学生に対する講座の開催に北海道の補助事業が設けられています。この補助事業を活用するため、事業の基本ルールを毎年度「実施要領」として定めています。事業の概略は139ページの「令和2年度次世代人材職業体験推進事業実施要領」をご覧ください。

北専各連では専修学校の2年生に対して、毎年、「専門学校在学生の意識調査」を行っており、今年度の調査では、回答者の16.4%が中学校のときに専門学校の職業体験講座を受講したと回答しています。また、受講したと回答した生徒のうち28.7%が中学校の時に訪問した専門学校に進学したと回答し、同じく受講した生徒のうち41.3%が職業体験講座の受講が専門学校への入学に「影響があった」「多少あった」と回答しており、早いうちから仕事に関する知識と理解を深めることが職業選択に効果的と考えられます。



2 事業の経過

この事業は平成21年度に専修学校57校が190の体験講座を用意してスタートし、およそ6,486人の中学生が受講しました。

その後、申込み中学校、受講者数ともに増加を続け、平成30年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」による北海道全域の大規模な停電により、1,100人余りの中学生が受講できなくなるといったことも生じましたが、令和元年度には受講者が回復しました。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中学校や専修学校が5

月 31 日まで断続的に休業を余儀なくされたことや、中学校ではその後も修学旅行を含む校外活動が大きく制限されたことなどから、例年は 4 月末頃から開催される講座が、今年度は最初の講座の開催が 8 月 20 日となるなど大幅に遅れてスタートしました。



また、修学旅行の中止に加えて、旅程の見直しにより次世代事業を行程に加えない中学校もあり、利用した中学校数、受講者数ともに例年に比べて大きく減少しています。

一方で、例年、修学旅行を活用して札幌市内の専修学校の講座を受講する中学校が多かったのですが、

今年度は中学校に比較的近い専修学校の講座を受講する中学校が増えるなど、新型コロナウイルス感染性に配慮したスタイルが目立っています。

次世代人材職業体験推進事業の開催状況

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
申込中学校数	255 校	265 校	255 校	274 校	97 校
開催講座数	1,721 講座	1,696 講座	1,622 講座	1,757 講座	617 講座
受講生徒数	12,348 人	14,399 人	12,837 人	13,461 人	4,301 人
専修学校参加数	94 校	91 校	95 校	90 校	94 校
設定講座数	249 講座	254 講座	262 講座	243 講座	249 講座

※令和 2 年度の開催状況は令和 3 年 2 月 4 日現在の実績

3 事業の特色

(1) 多彩な講座の提供

毎年度 90 校以上の専修学校が参加し 240 講座を越える様々な種類の体験講座を用意していますので、幅広い受講希望に応ずることができる内容となっています。一方で、人気の講座には受講希望者が多く集まることにより、受講できない生徒が生じるといった課題も出てきています。

(2) ワンストップサービスによる手続きの一元化

この事業への申込みから受講の決定までは、北専各連事務局が窓口となっています。一連の手続きをできるだけ集約化することによって、中学校は受講を希望する講座ごとに専門学校とやり取りする必要がなく、また、参加する専修学校の事務の軽減も図られています。

(3) 補助事業による事業の運営

前述のとおりこの事業は、体験講座の受講機会が得られにくい札幌市外の生徒の受講に対しては、北海道の補助事業の対象となっています。

この補助金を活用して、専修学校が開催した体験講座の経費の一部に対して負担金を支払うと



ともに、北専各連事務局が行っている手続き事務の経費の一部も補助金で賄われており、経費負担の軽減が図られています。

II アンケート調査の結果

1 参加中学校へのアンケート結果

令和元年度に参加した中学校を対象に行ったアンケート調査では、担当した教員のほぼ全員から「とてもよかった」「よかった」との高い評価をいただいています。

また、受講した生徒にとっても「とてもよかった」「よかった」との評価を担当した教員からいただいています。

申込みから受講までの手続きについては、概ね「支障はない」との回答でしたが、申し込んだ講座の開催ができない場合、受講の決定までの手続きに時間を要する場合があることから、「事前学習に取り組むのが遅くなった」などの指摘をいただいています。

この事業を利用した中学校の約8割が次世代事業の体験講座のみの利用となっており、残り2割が企業や大学等の体験講座等も併用しています。



令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、参加した中学校にとっても感染対策に細心の注意

を払いながらの実施となりました。そのようななか、担当した教員からは引き続き「とてもよかった」「よかった」との高い評価をいただいています。

一方で体験の内容に制限が生じた講座もあり、参加した生徒に体験の機会を設けてほしいとの要望も寄せられました。

また今年度は事前学習と事後学習の実施状況についてお聞きしたところ、多くの中学校で事前学習、事後学習ともに実施しているとの回答がありました。

参加中学校へのアンケート結果は154ページをご覧ください。

2 参加中学生へのアンケート結果

今年度新たに、次世代事業の職業体験講座を受講した中学生に対するアンケート調査を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で講座の開催が例年よりも遅れたため、8月と9月に次世代事業を利用した中学校から12校を選んで調査を行いました。いずれの中学校からも、こころよくご協力をいただきました。

調査の手順は、中学校に受講生徒分の調査票をお送りして、生徒に調査票を記入してもらい、記入した調査票を先生が回収して、北専各連に返送していただきました。

調査を実施した 12 校の受講地は札幌市が 6 校、函館市、旭川市、北見市が各 2 校で、434 名の中学生から回答をいただきました。

調査結果ですが、まず、「受講した講座の選び方」については、60.2%が「自分の興味や関心を持っている職業に関する講座を受講した」とし、「これまで職業などを深く考えたことがなかったので、面白そうだと思った講座を選んで受講した」(22.2%)が続きました。

次世代事業では必ずしも希望の講座を受講できるわけではなく、「自分が興味や関心のあ
る講座ではなかった」(11.3%)との回答もありました。



次に「受講した講座の内容」について、「よく理解できた」「理解できた」との回答がほとんど(98.6%)を占めました。受講時間は「ちょうど良かった」が 78.5%で、次いで「短かった」(15.0%)となりました。

「職業や仕事に対する考えの変化」については、「将来、どんな職業や仕事をしたいか考えるようになった」(29.9%)、「受講する前よりも職業や仕事についてもっと知りたくなった」(29.6%)が並び、「今回体験した職業とは別の職業についても体験してみたい」(21.6%)が続きました。

「将来やりたい職業や興味のある職業の有無」については、65.0%が「ある」と回答し、具体的な職業について訪ねたところ、様々な職業・仕事について回答をいただきました。多くの中学生が日常生活の中で、様々な職業について見聞きし、考える機会があることがわかりました。

「次世代事業に対する要望」をお聞きしたところ、「体験機会を増やしてほしい」という意見が少なからずありました。職業を身近に体験する機会に強い関心を持ったことがわかりました。

回答いただいた様々な意見や感想をまとめましたので、詳しくは 161 ページの調査結果をご覧ください。

3 参加専修学校へのアンケート結果

令和元年度に事業に参加した専修学校に対するアンケート調査では、受講申込みの件数や事務量については、専修学校 9 割超で概ね対応可能な範囲に収まっており、引き続き次年度も対応が可能との回答をいただいています。

また、半数近くの専門学校で「生徒の興味や関心に沿った講座を受講してもらうため、少人数であっても受け付けたい」との考えを重視しており、自校生徒の教育が最重要では

あるものの、できるだけ中学生の希望に添った体験講座の開催を目指しています。

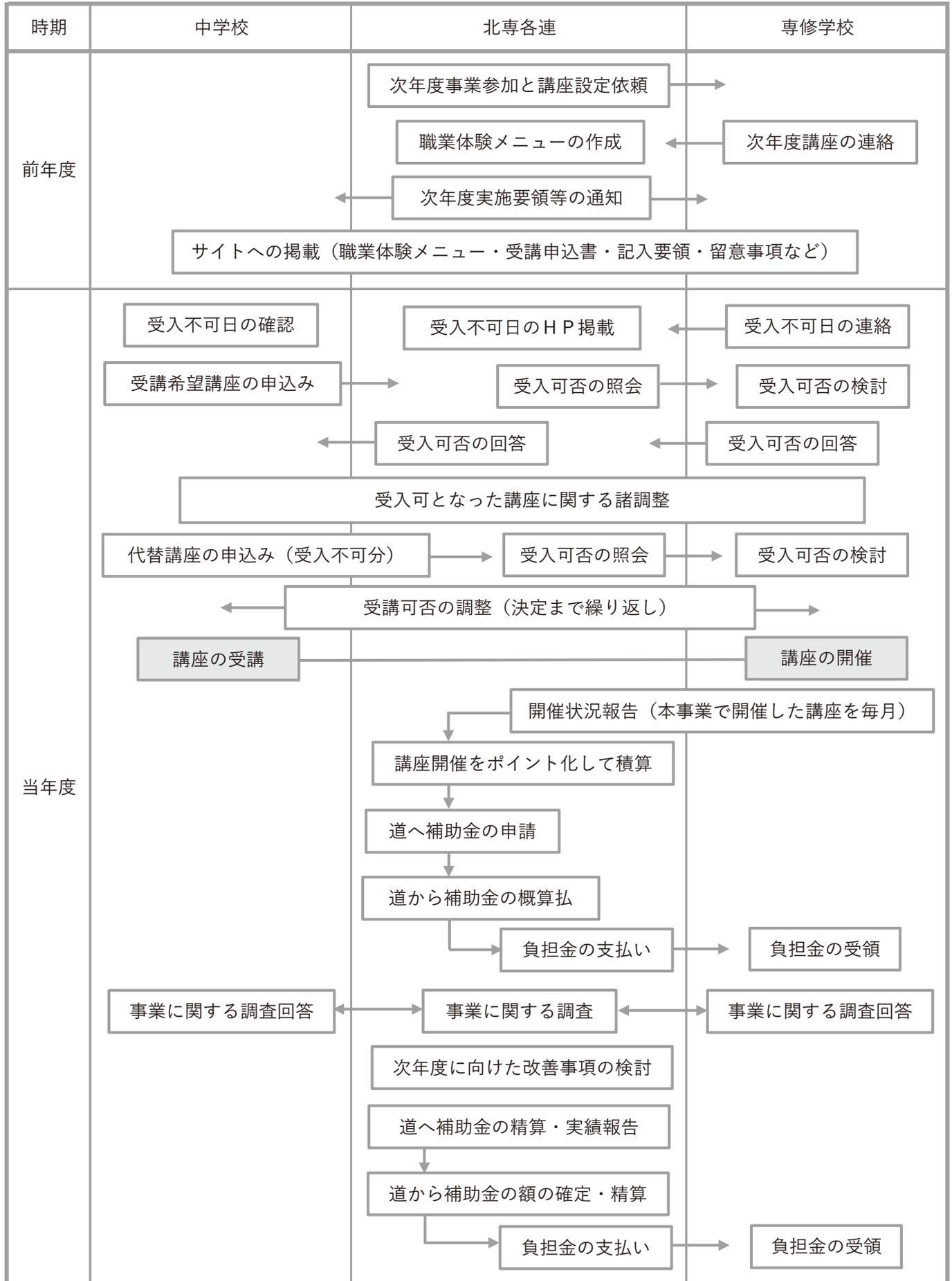
令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で専修学校自体の教育体制が大きな影響を受けました。このようななか、中学校からの受講申込件数が減少したこともあり、申込件数や受け入れにあたっての業務量については、専修学校からは概ね、対応可能な範囲にあるとの回答を得ています。



また、新型コロナウイルス感染症の影響については、どの専修学校も基本的な感染防止対策を講じたうえで受け入れ態勢を整えているとの回答でしたが、コロナ禍の影響を懸念する意見もありました。

参加専修学校へのアンケート結果の詳細は 168 ページをご覧ください。

III 令和2年度次世代人材職業体験推進事業の流れ



IV 開催マニュアル

この章では、次世代事業を実施するための様々な事務処理の手順を説明していきます。内容は概ね、時系列に沿ってご説明していきます。

また、文中に様式例や記載例を示しますが、実際の使用例は北専各連のサイトからもご覧になることができます。

中学校からの受講申し込み開始は4月ですが、準備作業は1月から開始しています。

1 講座の募集（1月）

専修学校あてに依頼文書を送付し、翌年度事業の開催を連絡して参加と開設する講座の提供を依頼します。

(1) 提供を受ける講座情報

提供を受ける講座情報は、開催する講座の分野、講座名、内容、定員、開催可能日・時間、開催不可能日、休校日、その他留意事項等です。

参加意向調査票の様式例は以下のとおりです。

次世代人材職業体験推進事業 参加意向調査票

学 校 名		担 当 者 名	
所 在 地		電 話 番 号	
メールアドレス		HP アドレス	

分 野	工 業	農 業	医 療	衛 生	教 育 ・ 社会福祉	商 業 実 務	服 飾 家 政	文 化 教 養
講 座 名								
講座内容								
定 員	名							
開催時間	午前 時 分 ～ 時 分 / 午後 時 分 ～ 時 分							
	所要時間 時間程度							
土日祝日	受入不可 ・ 土曜日のみ受入可 ・ その他（ ）							
備 考	(持ち物等を記載)							

(2) 職業体験メニュー一覧の作成

専修学校から翌年度の参加申込み及び講座の提供があったら、提供のあった情報をもとに「職業体験メニュー一覧」を作成します。

メニューは分野ごとに分類し、メニューごとの内容は、講座名、学校名（所在地）、開催可能日・時間・受入不可能日、定員、講座内容、留意事項等、実施校HPアドレスなどで、受講希望者が講座を選択する際の基礎情報となります。

職業体験メニュー一覧の実際の記載例を以下に示します。令和 2 年度は専修学校 94 校の参加で 249 講座を設定しました。メニューの抜粋を 140 ページに掲載します。

次世代人材職業体験推進事業 職業体験メニュー一覧

講座名	スポーツの仕事を知ろう！
学校名 (所在地)	北海道〇〇専門学校（札幌市東区北〇条東〇丁目）
講座内容	スポーツのお仕事について学び、実際に体験してみよう！ 体験実習では、トレーニングやテーピング、パートナーストレッチなどを行います。
定員	40名
開催時間	9時30分～11時00分 所要時間1.5時間程度
土日祝日	受入不可
備考 (持ち物等)	上靴、筆記用具、ジャージまたは動きやすい服装
実施校 HP	http://www.00000000000.jp

2 事業内容の更新の検討（2月）

当該年度の事業の実施結果や中学校や専修学校を対象に行ったアンケート調査結果を参考にして、次年度の事業の方法を検証し、必要に応じて手順の見直し、様式等の修正などを行います。

このサイクルを繰り返すことで、中学校の関係者や専修学校にとってできるだけ利用しやすい仕組みづくりの実現を目指します。

3 参加専修学校における具体的な受入不可能日の確認（3月・以降随時）

専修学校では、夏休みなどの休業日や大きな行事が予定されている日など、申し込みがあっても受入ができない日があらかじめ判明している場合があります。このような日を北専各連サイトに掲示しておくことで、無駄になってしまう申込みを減らすことができます。

まず、3月に確定している受入不可能日を専修学校から報告してもらい、一覧表を作成しサイトにアップします。

以降、新たな受入不可日が生じたら、随時、専修学校から報告を受けて様式に転記し、概ね1週間から10日程度ごとに更新版をサイトにアップしていきます。

アップする書式はカレンダーの受入ができない日に「×」が記入されているというシンプルなものですが、目的から考えて十分なものと思います。

次世代人材職業体験推進事業 受入不可能日一覧

講座番号	令和〇年〇月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
101	×					×	×			×		
102	×			×		×	×			×		
103	×					×	×					×

4 サイトへの掲載（3月）

（1）各種資料の更新

北専各連ではサイトのホームページに次世代事業のバナーを貼っており、受講を希望する中学校関係者はこのバナーをクリックすることで、次世代事業のページに入ることができます。次世代事業のページは3月中旬を目途に、年度更新しています。

更新する資料は以下のとおりで、記入が必要な書類には記入例を用意するとともに、「職業体験講座受講申込書」には、さらに記入要領を用意しています。

これらは、サイトから閲覧又はダウンロードできるようにしています。

（2）掲載する資料

ア 中学校向けの資料

- ・留意事項「はじめにお読みください」 … 144 ページ
- ・職業体験講座受講申込書（記入例） … 146 ページ
- ・職業体験講座受講申込書記入要領 … 147 ページ
- ・職業体験講座受講不可日一覧

イ 専修学校向けの資料

- ・職業体験講座開催状況報告書（記入例） … 148 ページ
- ・職業体験講座受講不可日掲載連絡票（記入例） … 149 ページ

ウ 中学校、専修学校共通の資料

- ・職業体験メニュー一覧 … 140 ページ

【中学校向け留意事項「はじめにお読みください」】

事業期間中は中学校から様々な問合せがあります。多くの中学校から寄せられる問合せやあらかじめお伝えしておいたほうが良いと思われる事項をまとめたものが「はじめにお読みください」です

書いてある内容はどちらかというと事業の枝葉のような内容ですが、細かなところを後出しにしないという点で、必要なことだと思います。

一方で、毎年度ごとに記載事項が増える傾向にあり、読める量の限界にきているとも感じています。

(3) 事業案内ページのサイトレイアウト

サイトへの掲載にあたっては、いろいろなレイアウトや内容が考えられますが、北専各連のレイアウトは極めてシンプルな構造で、サイトのホームページに張り付けたバナーをクリックすると次世代のページに入ることができます。

北専各連のサイトレイアウトを 150 ページに示します。実際のレイアウトは、北専各連のサイトをご覧ください。

5 台帳の作成

事業の実施に当たっては「台帳」を作成して、申込み、開催可否、開催状況等を一括管理しています。

(1) 台帳を作成する目的

令和元年度の実績では、中学校から申込みのあった講座数は 3,175 講座でした。開催した講座数は 1,757 講座なので、残る 1,418 講座は専修学校で開催できなかったり、中学校からキャンセルがあった講座になります。申込みのあった講座を専修学校が開催できない場合は、中学校から代わりの講座の追加申込みがあります。

このようにして中学校と専修学校のマッチングを行っていきませんが、時期によってはこの調整が集中することもあり、円滑に進めていくためにはできるだけ事務の負担のかからない方法で調整していくことが重要です。

このため台帳を作成して、中学校からの職業体験講座の申込み、専修学校における講座開催の可否、開催実績を随時に一括管理できるようにすることにより、事業の執行状況を的確に把握し、作業を省力化することが必要です。

北専各連は台帳をエクセルで作成しています。このような一般的な表計算ソフトであっても大きく次のような目的・機能を有しており、使い方次第ではさらに業務の効率化や集約が可能になると考えます。

【台帳の機能】

- ① 中学校からの職業体験講座の申請内容が確認できること
- ② 中学校からの申請の進捗状況が確認できること
- ③ 専修学校からの受入可否その他の回答内容が確認できること
- ④ 「中学校」「北専各連」「専修学校」の間のやり取りの文書を作成する際に、データを引用できること

(2) 台帳に登載する事項

- ① 一連番号（申込中学校ごとに固有番号を割り振って管理する）
- ② 中学校ごとの北専各連の担当者（担当者が複数いる場合）
- ③ 申込中学校、担当教諭、学校所在地、郵便番号、電話・FAX番号
- ④ 講座開催希望月日・曜日、受講希望（可能）時間
- ⑤ 申込講座番号、講座名、受講人数・受講生徒の学年
- ⑥ 開催する専修学校・電話番号・担当者
- ⑦ 受入可否
- ⑧ 受入専修学校からの連絡事項（定型連絡事項、開催時間、持ち物、服装、その他連絡事項）
- ⑨ その他（対応状況記入欄など）

次世代人材職業体験推進事業の台帳見本

No.	担当	学校名	担当教諭	月	日	曜	時間始	時間終	受入可否	専修学校名
1	〇〇	〇〇市立●●中学校	〇〇〇〇	7	8	水	9:00	12:00	可	●●専門学校
2	△△	■町立□□中学校	□□□□	10	20	火	13:00	15:00	可	□□専門学校
3	〇〇	△△町立▲▲中学校	▲▲▲▲	11	10	火	10:00	12:00	不可	▲▲専門学校

担当者	電話番号	講座	講座名	人数	学年	連絡希望
●●●●	0000-00-0000	126	リハビリテーションのお仕事講座	2	2	専門学校に連絡してください
□□□□	0000-00-0000	507	パティシエと一緒に製菓実習	10	2	専門学校への連絡は不要です
▲▲▲▲	0000-00-0000	304	動物看護師体験	6	2	

開始時間	持ち物	服装
受講時間は9:30～11:30です	上靴を持参してください	動きやすい服装で受講してください
	エプロン・三角巾を持参してください	

その他	中学校電話	中学校 FAX	〒	中学校住所
他校と合同で開催します	0000-00-0000	0000-00-0000	000-0000	●●市〇条●丁目
	0000-00-0000	0000-00-0000	000-0000	□□町■条■丁目
	0000-00-0000	0000-00-0000	000-0000	▲▲町△丁目

(3) 作業の効率化と入力ミス等の軽減のため台帳に設定する機能

台帳を作成する目的の一つに台帳をデータベース化し、入力したデータを他の文書の作成に活用し、業務量の軽減を図ることがあり、次のことができるようになっています。

- ① 専修学校に送付する「受入可否照会書・回答書」に、台帳に記載されている次の事項が転記できること
 - ・送付先となる専修学校名
 - ・受講申込中学校、担当教諭、学校所在地、郵便番号、電話・FAX番号
 - ・受講希望月日・曜日、受講希望（可能）時間
 - ・受講希望講座番号、講座名、受講人数・受講生徒の学年
- ② 中学校に送付する「受入可否回答書」に次のうち必要な項目が転記できること
 - ・申込中学校、担当教諭
 - ・受講希望月日・曜日、受講希望（可能）時間
 - ・受講希望講座番号、講座名、受講人数
 - ・担当専修学校、担当者、電話番号
 - ・連絡事項（選択して掲載できること）

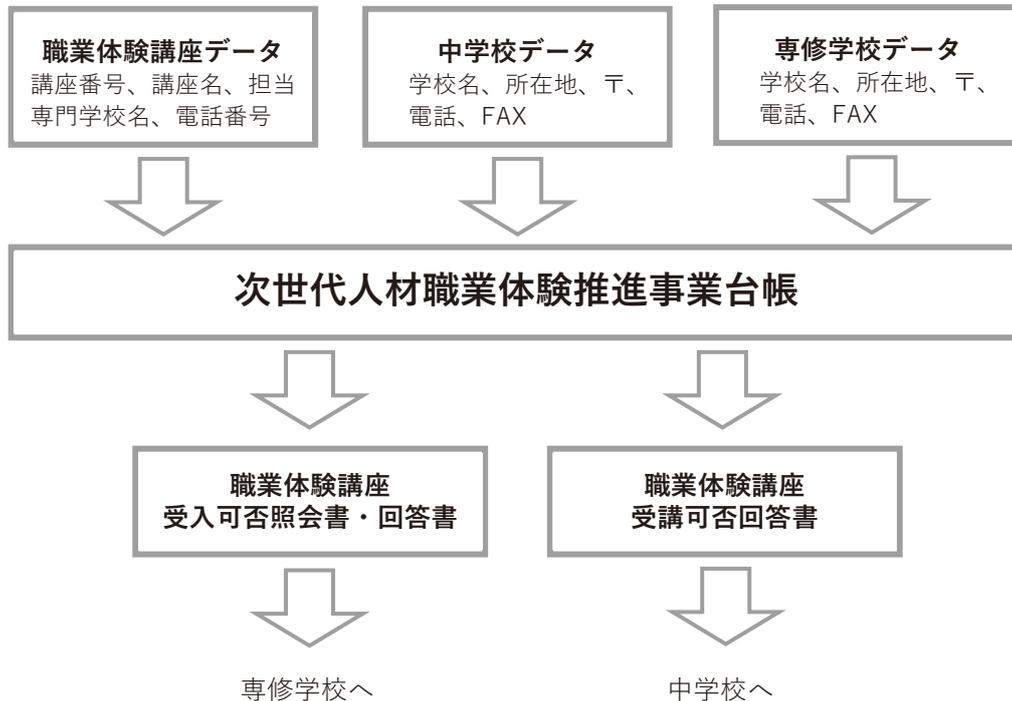
【連絡事項に関する令和2年度の掲載例】

- （講座の開催時間は○時○分から○時○分までです）開始時間に合わせて来校してください。
- 本書が届きましたら専修学校の担当者に連絡して、開催内容を確認してください。
- ジャージなど動きやすい服装で受講してください。
- 三角巾、エプロン、上靴を持参してください。
- 人数の変更やキャンセル等の場合は、速やかに専修学校の担当者へ連絡してください。

また、台帳自体にも入力作業を軽減できるような措置を講じています。

- ① 中学校名を入力したら、学校所在地、郵便番号、電話・FAX番号が自動入力されること
- ② 講座番号を入力したら、講座名、担当専修学校名、電話番号が自動入力されること

台帳と関係データや書類との連携イメージ



6 中学校等と専修学校への実施通知

4月1日からの開始に合わせて、3月上旬に事業に参加する専修学校並びに北海道内の中学校、中等教育学校、義務教育学校に実施通知を送付します。

(1) 中学校等あて実施通知（3月）

「はじめにお読みください」（144ページ）、「受講申込書」（146ページ）、「申込書記入要領」（147ページ）を添付して、各中学校等に開催を案内します。

また併せて、職業体験講座のメニューについては、北専各連サイトにアクセスして閲覧、ダウンロードができることを案内します。

(2) 専修学校あて実施通知（3月）

「実施要領」（139ページ）、「開催状況報告書」（148ページ）、「受講不可日掲載連絡票」（149ページ）を送付して、実施に当たっての協力を依頼します。

サイトに掲載した「職業体験メニュー一覧」の内容確認も併せて依頼します。

7 中学校からの受講申込み（4月以降）

北専各連では毎年度、4月1日に受付を開始します。中学校からは受講申込書がメールまたはFAXで送られてきます。

【10月以降の講座開催の申込み】

専修学校によっては、9月以降の自校のカリキュラム（時間割）等を8月頃に決定する学校があり、中学校から早めに受講申請書が提出されても、講座の開催可否をすぐには決定できず、回答が大幅に遅れるケースが生じるほか、申し込んだ中学校から、その後の状況の問合せが頻出する状況となっています。

このため令和2年度から、10月以降の講座開催の申込みについては7月以降の申込みとし、受講申込みから受講可否の決定までに不必要な期間が生じないようにしています。

（1）受講申込書の確認

受講申込書が送られてきたら、まず、次の事項を確認します。

- ① 受講申請書に記載された講座番号や講座名、担当する専修学校名は当該年度の体験メニューか。

前年度の体験メニューを見て申込みをする中学校があります。これに気が付かないで専修学校に受入可否を照会すると、照会手続きが混乱する恐れがあります。

- ② 申込み生徒数と講座ごとの受講希望者数の合計が一致しているか。

受講人数を多めに申し込み、受講決定後に人数の変更（減員）が行われるケースがあります。開催する専修学校は申込みの生徒数によって会場や担当教職員数、必要な教材の数量等を調整するので、人数が減少すると無駄が発生する場合があります。中学校からの申込みが輻輳した場合には受講できない生徒が生じるおそれがあるため、中学校には実人員での申込みを連絡します。

（2）申込内容の台帳への転記

申込書の内容を確認したら、記載事項を「台帳」（事務局様式）に転記します。台帳の内容、機能等については「5台帳の作成」を参照してください。

（3）参加専修学校への受入可否の照会

受講申込書の内容を台帳に転記したら、次に、受講希望のあった講座を担当する専修学校に講座開催の可否を照会します。

手順として、まず、台帳に転記された受講申込みデータをもとに、専修学校あての「受入可否照会・回答書」（151ページ）を作成します。作成に当たってはワードの「差し込み文書機能」により台帳のデータが転記されるようにしてあり、作成の手間が最小限になるようにしています。

「受入可否照会書・回答書」を作成したら、参加専修学校にFAXで送信します。

【「受入可否照会書・回答書」をFAXで送信する理由】

FAXよりもメールのほうが事務の手間や経費の面でも優位ですが、一方で担当者のメールアドレスに送ったものの、出張中などでしばらくの間、メールが開封されなかったということも起こりえます。

このため、専修学校との間では受信が確認しやすいFAXによるやり取りを行っています。

8 参加専修学校における受入可否の検討と回答

(1) 参加専修学校における受入可否の検討

参加専修学校は、北専各連から「受入可否照会書・回答書」が送付されたら、受入可否を調整します。

調整に当たっては、次の事項に留意するようにしています。

- ① 「受入可」として回答したのちは、混乱を避けるため、極力「受入不可」への変更は避けるようにしています。このため「受入可」として回答するにあたっては、講座の開催に必要な会場、担当する教職員、必要な教材等の確保はもとより、他行事との輻輳の有無、さらに自校生徒の教育に支障が生じないことなどを十分に確認する必要があります。
- ② 受講申込みが「受入不可」となった場合は、中学校ではすみやかに次の講座の申込みを行うこととなりますが、新たに申込みを受けた専修学校で受入可否の検討を行うため、時間を要します。このため受入可否を検討する専修学校では、「受入不可」と回答する可能性がある場合は、代替講座の確保に時間を要することを念頭においた回答を心がける必要があります。

(2) 参加専修学校からの受入可否の回答

参加専修学校から「受入可否照会書・回答書」に受入可否が記載されて戻ってきたら、可否の別を台帳に記載するほか、「受入可」の場合は、次の情報を台帳に転記します。これらの情報はワードの差し込み文書機能により、中学校への「受入可」の回答の際に回答書に転記されるようにしています。

【「受入可」の場合に台帳に転記する情報】

- ①専修学校の担当者名
- ②講座の開催時間（専修学校が指定した時間が記載されている場合）

講座の開催時間は多くは概ね 1 時間 30 分から 2 時間程度です。中学校では受講申込みの際に、受講が可能な時間の範囲、例えば「9:00～12:00」と記載して申し込む場合があります。専修学校では中学校が記載してきた受講希望時間のうちから都合の良い時間、例えば「10:00～12:00」などと時間を指定して回答することが可能となります。
- ③中学校から専修学校への事前連絡、事前調整の可否

専修学校によっては講座の開催までに中学校と具体の打合せを希望したり、逆に打合せは不要である場合もあり、必要に応じてこれらの意思表示をしてもらい、中学校に伝えています。
- ④持ち物、服装ほか、受講に当たって専修学校が記載した留意事項や条件等

9 中学校への受入可否の回答及び中学校からの追加申込み

（1）中学校への受入可否の回答

専修学校から受入可否の回答があり、内容を台帳に転記したら、速やかに中学校にその内容を連絡します。中学校への回答様式は、「受講可」用（152 ページ）と「受講不可」用（153 ページ）のそれぞれの様式があるので、該当する様式を選び、中学校への回答文書を作成します。「差し込み文書機能」を使い、専修学校からの受入可否回答 1 件につき 1 枚の回答文書を作成し、中学校に F A X またはメールにより送付します。

（2）中学校からの追加申込み

専修学校からの回答が「受入不可」だった場合は、中学校から代替講座の追加申込みを受け付けます。

追加申込みの方法は、中学校で提出済の「受講申込書」に新たに希望する講座を追記してもらう方法で行います。これにより事務局では、当該中学校からの申込講座全体を把握しながら事務処理を進めることができます。

【参考：職業体験講座の受入先確保の方法】

本事業における受講講座の決定方法は、おおむね①また②の手順によります。①の作業は本事業の基本的な手順であり北専各連が窓口となって調整しますが、②の作業は中学校から専修学校に連絡して調整しています。また、本事業の利用ではありませんが、中学校によっては③を併用しながら受講講座を決定しています。

- ① 本事業に申込み、申し込んだ講座が受入不可との回答があった場合は、代替講座を申し込みします。これを繰り返して、必要な人数が受け入れられるだけの講座を確保します。
- ② 受講する講座が決まらない生徒が、既に受入可となっている講座の受講を希望する場合は、担当する専修学校に受講人数の増を相談し、可能であれば受講者数を増やすことで受入先を確保します。
- ③ 本事業の利用ではありませんが、受け入れ先を確保する方法として企業や大学等で実施している体験講座等の活用も考えられます。北専各連では、北専各連以外の機関や団体が行う職業体験講座等への申込みや受講の併用を制限していません。

10 専修学校からの開催状況の報告

(1) 開催状況報告書の提出

本事業による職業体験講座の開催経費の一部は、負担金として北専各連から専修学校に支払われます。この経費には道の補助金が充てられていることから、負担金の支出額の根拠とするため毎月、参加専修学校から開催状況の報告を求めています。

また、こうして毎月、開催実績を得ることにより、事業の逐次の状況を把握することができます。

専修学校は、毎月末現在における講座の開催状況を「開催状況報告書」に記載して、翌月5日までに北専各連にメールで報告します（講座を開催しなかった月の分は報告不要）。

(2) 開催状況の確認

北専各連は専修学校からの「開催状況報告書」を受領したら、記載内容に誤りがないか確認のうえ、台帳の「受入可否」欄に色をつけて、「報告済」であることを明示して区分します。

参加校から未報告の講座がある場合は、開催の有無など未報告の理由を問合せます。

北専各連では「受入可」となっている講座が、その後、中学校からのキャンセルや参加校の都合により開催ができなくなった場合などは、必要に応じて「受入可否」欄の区分を「キャンセル」または「受入不可」に変更し、台帳を修正します。

(3) 開催状況の集計

開催した専修学校への負担金の支払いの根拠とするため、講座の開催状況に応じてポイントを積算します。複数の中学校からの受講者を合わせて開催した場合は、一つの講座として集計しています。

【令和2年度のポイントの付与基準】

講座の受講人員	5人未満	5人以上10人未満	10人以上
付与ポイント	1pt	2pt	3pt

11 負担金の支払い

北専各連では開催された講座の規模（受講人員）に応じて、開催した専修学校にポイントを付与します。

専修学校のポイントを累計し、付与したポイントが10ptあるいは15ptを超えた場合は、受講人員5人以上の任意の講座を選んで、負担金を月々支払い、付与したポイントを減じます。

負担金を支出する講座の種類	負担金支払額	減ずるポイント
受講人員が5人以上10人未満の講座	円	10pt
受講人員が10人以上の講座	円	15pt

この月々の負担金の支払いは北専各連にとっては財政的に負担が大きいため、北海道の補助金の「概算払い」を受けて支出しています。

専修学校からの「開催状況報告」は負担金の支出額を算定するための根拠となるので、慎重に確認を行っています。

毎月、負担金を支出するとともに、事業が終了したら北海道に補助金の実績報告を行い、検査を受けて問題がなければ、補助事業は終了となります。

12 効果測定

毎年度効果測定を行い、事業の満足度の向上や事務手続きの改善に努めています。

(1) 事業を利用した中学校に対する調査

例年7月から、事業を利用した中学校に調査を実施しています。

令和元年度の調査結果は 154 ページから、令和 2 年度の調査結果は 158 ページからのとおりです。

調査内容としては、利用する中学校にとっての事業の使いやすさ、受講生徒にとっての満足度などが中心になります。調査内容は毎年度、必要に応じて見直しを行います。令和 2 年度は新たに、この事業を中学校における事前学習や事後学習に活用しているかどうか、活用している場合はどのように活用しているかについて調査項目に追加しました。

回答は随時集計して、理事会等に報告するとともに、集計結果は翌年度の中学校に対する開催案内文書に添付して公表しています。

(2) 受講した中学生に対する調査

令和 2 年度から新たに、受講した中学生への調査を実施しています。

この事業は受講生徒数が多く、これまでは中学生を対象とした調査は行っていませんでしたが、文部科学省の委託事業における昨年度の委員会で、委員から「受講した中学生の意見を把握することも大切」とのご意見をいただき、新たに調査を行うこととしました。

調査は、まず、この事業を利用した中学校のなかから調査対象校を選び、その中学校の受講した中学生全員を対象に調査を行いました。

令和 2 年度の調査結果は 161 ページのとおりです。

(3) 参加校に対する調査

例年 10 月頃に参加専修学校に調査を行い、参加校における状況や意見等を取りまとめています。

調査の内容は主に、事業の使い勝手、事業が学校の業務に与える影響（無理がないか）などとなっています。

調査結果は 168 ページからのとおりです。

取りまとめた内容は、理事会等に報告するとともに、事業内容の見直し等の参考資料に活用しています。

令和2年度次世代人材職業体験推進事業実施要領

1 目的

職業教育の専門機関であり、職業体験施設を保有し、かつ能力開発に関する情報等を豊富に持つ専修学校等が、職業体験の機会に恵まれない中学生に対する「専修学校等を活用した職業体験講座」（以下「職業体験講座」という。）の開催に対して、負担金を支出することにより支援し、若年者の職業観、勤労観の早期形成を図る。

2 事業の効果

- (1) 多様な職業体験の機会をより多くの生徒に提供することによって、早期に職業観、勤労観の形成を図り、就職後の早期離職や非正規雇用者の増加防止を図る。
- (2) 雇用のミスマッチを防ぐことにより、道内企業への定着率を高め、道内企業の競争力の向上を図る。

3 職業体験講座の申込及び受入可否の決定等

- (1) 職業体験講座の受講を希望する中学校は、北海道私立専修学校各種学校連合会（以下「北専各連」という。）に受講申込書を提出する。
- (2) 北専各連は中学校からの受講申込書を受理したら、中学校が受講を希望する職業体験講座を開催する専修学校等に受講可否を照会する。
- (3) 専修学校等は検討のうえ、できるだけ速やかに受講可否を決定し、北専各連に回答する。
- (4) 北専各連は中学校に受講可否を回答する。結果が受講不可であった場合、中学校は、追加の職業体験講座を申し込むことができる。
- (5) 中学校から専修学校等に直接、受講申込があった場合は、北専各連事務局に申し込むよう依頼するものとする。

4 負担金の取扱い

職業体験講座を開催した専修学校等に対して、次のとおり負担金を支出する。

- (1) 専修学校等は毎月末までの職業体験講座の開催状況を「開催状況報告書」に記載し、翌月5日までに北専各連に報告する。
- (2) 北専各連は、専修学校等が開催した職業体験講座ごとの受講人員に応じて、次のとおりポイントを付与する。

ア 受講者が5人未満の職業体験講座	1.0pt
イ 受講者が5人以上10人未満の職業体験講座	2.0pt
ウ 受講者が10人以上の職業体験講座	3.0pt
- (3) 北専各連は専修学校等に付与したポイントの合計に応じて、次に定める負担金を支出する。

ポイントの合計額	負担金の支出額
10pt	円
15pt	円

なお、負担金の支出に当たっては、支出額に応じて、専修学校等が開催した職業体験講座のなかから、負担金の対象とする講座を指定して支出する。

負担金の支出額	指定する講座の規模
円	受講人員が5人以上10人未満
円	受講人員が10人以上

- (4) 上記の方法により、最終段階で道補助金に余裕が生じた場合は、負担金支出状況を精査のうえ換算割合を補正するなどして追加の負担金を支出し、支出額を確定する。
- (5) 札幌市内の中学校からの申込みは、負担金の対象外とする。

令和2年度 職業体験メニュー一覧（抜粋）

A 専修学校における職業体験講座（札幌市）

工業分野	23講座	1 へ° -ジ°
農業分野	5講座	6 へ° -ジ°
医療分野	24講座	8 へ° -ジ°
衛生分野	28講座	14 へ° -ジ°
教育・社会福祉分野	17講座	22 へ° -ジ°
商業実務分野	31講座	26 へ° -ジ°
服飾・家政分野	6講座	34 へ° -ジ°
文化・教養分野	40講座	36 へ° -ジ°

合計 174講座

B 専修学校における職業体験講座（札幌市以外）

旭川市	18講座	45 へ° -ジ°
東川町	7講座	50 へ° -ジ°
芦別市	2講座	52 へ° -ジ°
小樽市	1講座	52 へ° -ジ°
千歳市	1講座	53 へ° -ジ°
恵庭市	16講座	53 へ° -ジ°
北広島市	1講座	57 へ° -ジ°
室蘭市	5講座	57 へ° -ジ°
登別市	3講座	58 へ° -ジ°
帯広市	2講座	59 へ° -ジ°
北見市	8講座	60 へ° -ジ°
函館市	8講座	62 へ° -ジ°
釧路市	3講座	64 へ° -ジ°

合計 75講座

A 専修学校における職業体験講座（札幌市）

【工業分野】 建築・土木・電気・自動車・コンピュータ・ゲーム・バイオ・環境

工業分野 101 【札幌市】

講座名	パソコンを使って家を設計しよう
学校名（所在地）	青山建築デザイン・医療事務専門学校（札幌市中央区北5条西14丁目）
講座内容	簡単なソフトを使って家の間取りを作り、立体にしてからオリジナルデザイン住宅の作成、その他、施設見学、質疑応答
定員	10名（定員を超えても受講は可能ですが、複数名に対してパソコン1台の利用になります）
開催時間	10時00分～11時30分 / 13時30分～15時00分 所要時間1.5時間程度
土日祝日	受入不可
備考（持ち物等）	筆記用具、上靴
実施校ホームページ	http://www.aoyamakougaku.ac.jp/

工業分野 102 【札幌市】

講座名	パソコンでインテリアをデザインしよう
学校名（所在地）	青山建築デザイン・医療事務専門学校（札幌市中央区北5条西14丁目）
講座内容	3D-CAD（立体ソフト）を使い、家具を配置してインテリア設計を体験、その他、施設見学、質疑応答
定員	10名（定員を超えても受講は可能ですが、複数名に対してパソコン1台の利用になります）
開催時間	10時00分～11時30分 / 13時30分～15時00分 所要時間1.5時間程度
土日祝日	受入不可
備考（持ち物等）	筆記用具、上靴
実施校ホームページ	http://www.aoyamakougaku.ac.jp/

工業分野 103 【札幌市】

講座名	クルマのお仕事ガイド
学校名（所在地）	専門学校北海道自動車整備大学校（札幌市東区中沼西2条1丁目15-15(2号館)）
講座内容	自動車に関わる仕事の種類、将来性、その仕事に就くための進路等を学ぶ。体験実習を通して、自動車分野のキャリアイメージを作る。
定員	25名
開催時間	9時30分～11時00分 / 10時00分～11時30分 所要時間1.5時間程度
土日祝日	受入不可
備考（持ち物等）	体験実習がありますので、動きやすい服装（ジャージ等）
実施校ホームページ	http://www.yoshida-seibi.jp

工業分野 104 【札幌市】

講座名	自動車整備士の仕事体験
学校名（所在地）	札幌科学技術専門学校（札幌市中央区大通西17丁目1-22）
講座内容	実物の自動車やパーツの分解、組み付けを行って自動車の仕組みを学びます
定員	10名
開催時間	随時調整（原則10時以降の開始） 所要時間2時間程度
土日祝日	受入不可、その他（学校休業日、学校行事日は開催不可）
備考（持ち物等）	ジャージ着用、筆記用具
実施校ホームページ	http://www.s-kagisen.ac.jp/

工業分野 105 【札幌市】

講座名	自動二輪車整備士の仕事体験
学校名（所在地）	札幌科学技術専門学校（札幌市中央区大通西17丁目1-22）
講座内容	オートバイの実車もしくはエンジン単体を使ってオートバイの仕組みを学びます
定員	5名
開催時間	随時調整（原則10時以降の開始） 所要時間2時間程度
土日祝日	受入不可、その他（学校休業日、学校行事日は開催不可）
備考（持ち物等）	ジャージ着用、上靴、筆記用具 ※本講座のみ北校舎（札幌市東区北24条東1丁目3-12）で実施
実施校ホームページ	http://www.s-kagisen.ac.jp/

工業分野 106 【札幌市】

講座名	環境を知る・守る仕事体験
学校名（所在地）	札幌科学技術専門学校（札幌市中央区大通西17丁目1-22）
講座内容	屋外での自然観察や簡単な水質分析の実験を通して、環境問題や環境を守るために必要な仕事について学びます
定員	8名
開催時間	随時調整（原則10時以降の開始） 所要時間2時間程度
土日祝日	受入不可、その他（学校休業日、学校行事日は開催不可）
備考（持ち物等）	筆記用具
実施校ホームページ	http://www.s-kagisen.ac.jp/

工業分野 107 【札幌市】

講座名	バイオテクノロジーに関する化学実験
学校名（所在地）	札幌科学技術専門学校（札幌市中央区大通西17丁目1-22）
講座内容	簡単な化学実験を通して、身近に関わるバイオテクノロジーについて学びます
定員	8名
開催時間	随時調整（原則10時以降の開始） 所要時間2時間程度
土日祝日	受入不可、その他（学校休業日、学校行事日は開催不可）
備考（持ち物等）	筆記用具
実施校ホームページ	http://www.s-kagisen.ac.jp/

工業分野 108 【札幌市】

講座名	水の中の生物について
学校名（所在地）	札幌科学技術専門学校（札幌市中央区大通西17丁目1-22）
講座内容	プランクトン、魚、イカなどその時期で観察できる水生生物を観察し、生態を学びます
定員	10名
開催時間	随時調整（原則10時以降の開始） 所要時間2時間程度
土日祝日	受入不可、その他（学校休業日、学校行事日は開催不可）
備考（持ち物等）	筆記用具
実施校ホームページ	http://www.s-kagisen.ac.jp/

B 専修学校における職業体験講座（札幌市以外）

【旭川市】

工業分野 901 【旭川市】

講座名	プログラミング体験
学校名（所在地）	旭川大学情報ビジネス専門学校（旭川市8条通7丁目2363-7）
講座内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT業界のお仕事について説明をします ・ IT業界で働くために必要な資格やスキルの説明をします ・ コンピュータ言語を使用してプログラミングを体験します
定員	20名
開催時間	10時00分～12時00分 / 13時30分～15時30分 所要時間2時間程度（随時調整）
土日祝日	受入不可
備考（持ち物等）	必要な持ち物なし
実施校ホームページ	http://bica.ac.jp

工業分野 902 【旭川市】

講座名	デザイン体験
学校名（所在地）	旭川大学情報ビジネス専門学校（旭川市8条通7丁目2363-7）
講座内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT業界のお仕事について説明をします ・ IT業界で働くために必要な資格やスキルの説明をします ・ Webサイト制作またはCGソフトを使用してデザイン体験をします
定員	20名
開催時間	10時00分～12時00分 / 13時30分～15時30分 所要時間2時間程度（随時調整）
土日祝日	受入不可
備考（持ち物等）	必要な持ち物なし
実施校ホームページ	http://bica.ac.jp

商業実務分野 903 【旭川市】

講座名	楽しいインターネットセミナー
学校名（所在地）	旭川医療情報専門学校（旭川市9条通11丁目左3号）
講座内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ メール活用テクニック ・ インターネット活用テクニック ・ ファイルの圧縮、解凍 ・ セキュリティーについて
定員	28名
開催時間	9時30分～12時30分 所要時間2時間程度
土日祝日	受入不可
備考（持ち物等）	上靴、筆記用具
実施校ホームページ	http://www.atg-web.ac.jp

令和2年度次世代人材職業体験推進事業

「はじめにお読みください」

受講申込手続きや講座の開催を円滑に進めるため、次の事項にご留意の上、申込みをお願いいたします。

1 受講申込みにあたって

(1) 毎年、多数の中学校からお申込みをいただき、手続きに時間を要しています。各専修学校での授業や行事等の調整により受入可否の回答に時間を要する場合がありますので、余裕を持ってお申込みください（遅くとも受講希望日の1ヶ月前までに申込みをお願いします）。

なお、10月以降に開催する講座への申込みは7月1日（水）から受付します（専修学校によって後期日程の決定が夏休み以降となるため）。

(2) できるだけ中学校からのご希望に沿って受講できるよう調整に努めておりますが、受講申込みによって受講を保証するものではありません。

中学校によっては受講前の数週間を事前学習に充てているところもありますが、調整によっては時間を確保できなくなる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

(3) 受講申込書の記入の際に講座番号、講座名、専修学校名が正しく記入されずに誤った講座が申込みされる場合があります。申込み前に必ず、誤りが無いか確認してください。

(4) 複数の中学校から同じ講座への申込みがあった場合、原則として合同で開催していません。

(5) 生徒の興味のある分野、あるいは興味がない場合でも苦手ではない分野への参加などにもご配慮をお願いします。

(6) 受入可否は専修学校で調整のうえ当連合会からご連絡いたします。受講可否に関する専修学校への直接の問合せは、専修学校の授業に支障を生じる恐れがありますので、ご遠慮くださるようお願いいたします。

(7) 開催講座ごとに、現時点で受入できないことが確定している日を当サイトに掲示していますので、申込みの参考にしてください。（3月末に掲載予定）

また、受講不可となっていない日に申し込んでも、調整により受講できない場合があります。

(8) ○月○日で受入可能な専修学校や講座を教えてほしいなど、修学（研修）旅行等の日程に合わせた受入先はお知らせしておりませんので、ご了承ください。

(9) 講座を確保してから生徒の受講希望を確認するなどにより、受講希望者がいない講座が生じてキャンセルする例がみられます。他の中学校の受入れにも影響しますので、事前に生徒の受講希望をご確認いただくなどして受講希望者を取りまとめのうえ、お申込みください。

(10) 新型コロナウイルスの感染拡大あるいはその恐れがある場合は、講座の開催を中止する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

2 受入講座が決定したら

(1) 受講希望生徒が増えたにもかかわらず専修学校への連絡が無いまま専修学校に来校したため、講座の開催に支障をきたす事例がありました。教員の確保や使用する教室、教材の準備の都合などがありますので、受講人数に変更が生じた場合は、必ず事前に講座を開催する専修学校に連絡してください。

(2) 講座の効果を高めるため、あらかじめ、受講の目的を生徒に教えていただくなど、事前のご指導にご配慮をお願いします。

(3) 生徒からあらかじめ、質問などを取りまとめている場合は、当日の対応をより円滑にするため、事前にその内容を講座を開催する専修学校にご連絡いただければ助かります。

(4) 申込みをした講座に受入れができない場合は、再度、代替講座の申込みを承りますので、受講申込書に受講を希望する講座を追加して、申し込んでください。

(5) 講座の受講に関する費用の負担はありません（講座を開催する専修学校までの交通費はご負担をお願いします）。

3 受講に際してのお願い

(1) 待機場所がない学校もありますので、講座の開始時間に合わせて来校くださるようお願いいたします。また、生徒、引率の先生、カメラマンなどが別々に来校されると案内の人員が不足して対応できない場合がありますので、一緒に来校くださるようお願いいたします。

(2) 専修学校内には専修学校生徒の備品や作品などがあります。許可なく触れたり、使用したりしないようにしてください。

(3) 受講先と違う専修学校を訪問する事例が発生しています。最悪の場合、受講できなくなるケースが想定されますので、受講する専修学校名と所在地は必ず確認してください。

(4) 生徒の名前がわかるように、名札の着用などにもご配慮をお願いします。

(5) 講座によっては複数の中学校が合同で受講しています。参加した中学生それぞれが気持ちよく受講できるようご配慮をお願いします。

(6) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受講者の体調を確認の上、のどの痛み、咳、発熱などの症状がある場合は受講をお控えください。

申込先：Eメール (senkaku3@hsu.ac) または F A X (011-242-1977)

受講番号

令和 2 年度次世代人材職業体験推進事業 職業体験講座受講申込書 (記 入 例)

令和 2 年 4 月 15 日

学校名	●●町立▲▲中学校			担当者名	●● ▲▲
電話番号	0000-11-2222	F A X 番号	3333-44-5555	E-mail	aaaa@bb.cc
学校代表メールアドレス	aaa@bb.cc		担当個人メールアドレス	ddd@ee.ff	

※10月以降の受講希望は7月1日(水)から受付開始です。

受講希望日	令和 ▲ 年 ▲ 月 ▲ 日 (■ 曜日)	備 考 (配慮が必要な事項などがありましたら、記入してください)
受講希望時間	9 時 0 分 ~ 12 時 0 分	
参加規模	① 全校 年生 人 ② 特定の学年 2 年生 90 人 ③ 特定の希望者 年生 人	
受講目的	() 修学・研修旅行 () その他	

受 講 希 望 講 座				
講座番号	講座名	専修学校名	人数	
1	111	●●の仕事体験	北海道●●看護専門学校	5
2	222	●●業界について知ろう	専門学校▼▼リハビリテーション学院	10
3	333	▲▲の仕事って?	北海道■調理製菓専門学校	10
4	444	▲▲の仕事の魅力と学ぶこと体験	▲▲医療歯科専門学校	12
5	555	■の仕事を知ろう	札幌●●美容専門学校	6
6	666	プロから学ぶ▼▼実習	▲▲子ども福祉専門学校	7
7	777	▼▼業界の職業に就くために	北海道■ブライダル専門学校	15
8	888	●●の仕事を経験しよう	専門学校北海道▼▼学院	15
9	999	もっと▲▲▼▼!	北海道●●動物専門学校	10
10	123	■の仕事体験	札幌●●看護専門学校	10
11	234	●●の仕事を知ろう	北海道▲▲美容専門学校	6
12	345	▲▲業界の職業に就くために	札幌●●ブライダル専門学校	15
13	456	●●業界について知ろう	北海道■理容美容専門学校	6
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

令和2年度次世代人材職業体験推進事業

「受講申込書記入要領」

1 中学校名、担当者名、電話番号、FAX番号、学校代表メールアドレス、担当個人メールアドレスを記入してください。

※学校単位で申し込んでください（クラス別や担当教諭別の申込みはできません）

2 受講希望について

(1) 受講を希望する年月日、曜日、時間を記入してください。

(2) 修学旅行（研修旅行）での活用の有無等について、該当する方に○を付けてください。

(3) 参加規模について、次により記載してください。

①全校…全校で活用する場合、活用する学年と参加人数を記入してください。

②特定の学年…活用する学年と参加人数を記入してください。

③特定の希望者…学年全体ではなく、希望者のみの参加の場合、学年、参加人数を記入してください。

(4) 「受講希望講座」には、「令和2年度職業体験メニュー一覧」に記載の講座から希望する講座を選び、3けたの講座番号、講座名、専修学校名を記入してください。

人数欄には希望する講座ごとに受講希望者数を記入してください。

なお、開催講座ごとに受入ができない日を当サイトに掲示していますので、申込みの参考にしてください。

(5) 申込みいただく講座が他の中学校からの申込みと重なる場合は、合同での講座開催を原則とします。他校と合同で受講できない特別の理由がある場合は、備考欄に理由を記載してください。

- ①本事業で講座を開催するごとに、本票に開催状況を順に記入してください（月ごとではなく全て記載してください）。
 ※開催しなかった月は報告の必要はありません。
 ②毎月、月末までの開催状況を記入したら、翌月5日までに本票を事務局にメールで送付してください（Eメールアドレス：senkaku3@hsu.ac）。
 ③複数の中学校を合同で受け入れて開催した場合は、「受入中学校」と「受入人数」欄に個別に記載してください。
 ④記載する行が足りなくなったら、下に付け足してください。

令和2年度次世代人材職業体験推進事業 職業体験講座開催状況報告書 （記入例）

専門学校名	●●●●専門学校
-------	----------

○年○月末日現在

<負担金振込口座>

振込先金融機関名	支店名	
預金種別（※）	口座番号	
口座名義（フリガナ）		
口座名義（漢字）		

※「預金種別」欄には「普通、当座、貯蓄」等の該当する種別を記載してください。

開催月日	曜	開始	終了	講座番号	受入人数 (合計人数)	受入中学校	受入人数
4月17日	金	10時0分～	11時30分	100	8人	●●市立●●中学校	8人
5月20日	水	13時0分～	15時0分	200	10人	▲▲町立▲▲中学校	10人
6月8日	月	10時0分～	12時0分	300	18人	○○町立○○中学校	3人
月 日		時 分～	時 分		人	■●村立■●中学校	8人
月 日		時 分～	時 分		人	▲●村立▲▲中学校	7人
月 日		時 分～	時 分		人	合同開催の場合は、 各中学校の合計人	人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人
月 日		時 分～	時 分		人		人

令和2年度次世代人材職業体験推進事業 職業体験講座受講不可日掲載連絡票（記入例）

学校名

令和 年 月 日 連絡

		令和2年4月																												
講座番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
101	×					×	×													×	×						×	×		
102	×					×	×													×	×						×	×		
103	×					×	×											×		×	×					×	×			
104	×					×	×				×									×	×						×	×		
105	×					×	×													×	×						×	×		

2回目以降の報告のときは、新たに追加、変更した箇所には色をつける

		令和2年5月																													
講座番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
101			×	×	×	×	×				×	×						×	×												
102			×	×	×	×	×				×	×						×	×												
103			×	×	×	×	×				×	×						×	×												
104			×	×	×	×	×	×			×	×						×	×												
105	×	×	×	×	×	×	×				×	×						×	×												

受入不可で「×」を付けて報告したが、その後、受入可となった場合の

※掲載手順

- 1 まず、3月23日（月）までに上記のように受入不可日に「×」をつけて、事務局へ送付してください。
- 2 事務局は各講座の受入不可月日を一覧表にまとめ、北専各連HPに掲載します。
- 3 以降、参加校からは随時受入不可月日の提供を受け、事務局は掲載情報を更新してまいります。受入不可から受入可への変更も同様とします。

事業案内ページのサイトレイアウト（例）

公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会
北海道の専門学校 総合情報サイト

北海道の専門学校情報なら公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会HSU

ニュース&トピックス お問い合わせ

さあ、なりたい未来にピッタリの学校を探そう！

各分野の詳しい職種はこちら

コンピュータゲーム	建築・土木・電気 自動車・航空	農業・海洋・環境	看護	医療・リハビリ 放射線
歯科	医療事務・薬業	美容 ファッション	調理・製菓	こども
福祉	旅行・ホテル 語学・エアライン	公務員・ビジネス	音楽・放送 デザイン	スポーツ・動物

道央 道北 道東 道南

道央エリア全て

赤平市 芦別市
 岩見沢市 歌志内市
 恵庭市 江別市
 小樽市 北広島市
 札幌市 砂川市
 滝川市 伊達市
 千歳市 苫小牧市

学校を探そう!!

北専各連
について

専修・各種学校
について

北海道の
専門学校を探そう!

体験入学情報を
チェックしよう!

学費・進学資金
について

専門学校で
取得できる資格

中学生のための
職業体験講座

次世代人材 職業体験

中学校
教諭の
皆様へ

次世代人材 職業体験

未来を
先取り!

中学生のための”職業体験講座”

(次世代人材職業体験推進事業)

専修学校を訪問して、いろいろな職業を体験してみませんか！

将来の夢の実現に向けて、中学生に職業観や勤労観をもってもらうために、職業体験の場を提供するものです。それぞれの専修学校の特色を生かした職業体験講座を提供いたします。

修学旅行や宿泊研修の機会にぜひご活用ください。また、あなたの地域の専修学校を訪問してはいかがでしょうか。きっとお役にたちますよ。

■ 中学校の教職員の方々へ

令和2年度の申込受付は、4月1日（水）からです。

（※10月に降に開催する講座への申込みは7月1日（水）から受付します。）

- ・はじめにお読みください（ PDF：81KB）
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応を追加しました。
- ・受講申込書（ PDF：51KB / Excel：16KB） ・ 受講申込書記入例（ PDF：83KB）
- ・受講申込書記入要領（ PDF：51KB）
- ・講座ごとに受講ができない日を一覧にしましたので、申込みの際の参考にしてください。
- ※受講不可となっていない日に申し込んでも、受講を保証するものではありません。

[4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#) [9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#) [3月](#) （8月4日現在）

令和2年度次世代人材職業体験推進事業 職業体験講座受入可否照会書・回答書

令和 年 月 日

(参加専門学校) ご担当者 様

(公社) 北海道私立専修学校各種学校連合会

広報企画委員長 前鼻英蔵

(返送先FAX: 011-242-1977 担当: ○○)

中学校から次のとおり申し込みがありましたので、ご検討のうえ、受入可否をご連絡ください。

なお、開催に当たっては新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、受講者の手指等の消毒、受講者同士が距離を保てる空間の確保や講座内容の設定、また、教室の換気などについてご配慮をお願いいたします。

■ 申込学校名等

学校名	【 】	担当者名	
住所	〒		
電話番号		FAX 番号	

■ 受講希望日時・講座等

受講希望日時	令和 年 月 日 () : ~ :
--------	--------------------

講座番号	講座名	受講人員	学年等

下記に受講可否等を記入の上、本書を返送してください。

講座番号	受講可否	受講に当たっての条件等
	可 否	

※受講可否欄は可否のどちらかを○で囲んでください。

通信欄	(連絡事項等があれば記入してください)
	<input type="checkbox"/> 中学校への回答に、講座内容確認等のための事前連絡希望を明記 (□にレを入れてください) <input type="checkbox"/> 中学校への回答に、「事前連絡」が不要であることを明記 (□にレを入れてください)

専修学校担当者名	
----------	--

令和2年度次世代人材職業体験推進事業職業体験講座受講可否回答書

受 講 可

令和 年 月 日

【 】(中 学 校 名) (担当教員名) 様
(FAX :)

(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会
事務局長 横 山 和 博

次世代人材職業体験推進事業に係る職業体験講座について

お申込いただいている標題の件について、次の講座の受講が可能となりましたのでご連絡いたします。
なお、【重要】をよくお読みくださり、ご準備をお願いいたします。

記

受講希望日時	令和 年 月 日 () : ~ :
--------	--------------------

【受講が可能な講座】

講座番号	講座名	受講人数
専門学校名	担当者	電話番号

【重要：よくお読みください】

(掲載例)

- (講座の開催時間は○時○分から○時○分までです。) 開始時間に合わせて来校してください。
- 本書が届きましたら専門学校の担当者に連絡して、開催内容を確認してください。
- 専門学校への事前連絡は不要です。
- ジャージなど動きやすい服装で受講してください。
- 三角巾、エプロン、上靴を持参してください。
- 人数の変更やキャンセル等の場合は、速やかに専門学校の担当者へ連絡してください。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受講者の体調を確認の上、のどの痛み、咳、発熱などの症状がある場合は受講をお控えください。

(担当: TEL 011-242-1955 FAX 011-242-1977)

令和2年度次世代人材職業体験推進事業職業体験講座受講可否回答書

受 講 不 可

令和 年 月 日

【 】(中 学 校 名) (担当教員名) 様
(FAX:)

(公社) 北海道私立専修学校各種学校連合会
事務局長 横 山 和 博

次世代人材職業体験推進事業に係る職業体験講座について

お申込いただいている標題の件について、次の講座は受入れができませんのでご連絡いたします。

記

受講希望日時	令和 年 月 日 () : ~ :
--------	--------------------

【受入れできない講座】

講座番号	講座名	#N/A	受講人数
------	-----	------	------

備 考	代替りの講座をご希望の場合は、下記「代替講座の申込みについて」をご覧ください。 え、申込みをお願いいたします。
-----	--

■代替講座の申込みについて

- 1 ご希望の講座を選定の上、提出いただいている受講申込書に追加して記入の上、申し込んでください。
- 2 講座の選定に当たっては、希望する講座が希望日に受入不可となっていないか確認してください。
- 3 申込みをいただきましたら、改めて受講可否を調整のうえ、結果をご連絡いたします。

(担当: TEL 011-242-1955 FAX 011-242-1977)

令和元年度次世代人材職業体験推進事業 札幌市外の参加中学校に対するアンケート集計結果

問1 当講座を利用していかがでしたか

(1) 担当された貴校教員の皆様にとっていかがでしたか

項 目		人数	%
1	とてもよかった	88	63.3
2	よかった	50	36.0
3	どちらともいえない	0	0.0
4	あまりよくなかった	1	0.7
5	まったくよくなかった	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		139	100.0

(2) 受講した生徒さんにとってはいかがでしたか

項 目		人数	%
1	とてもよかった	86	61.9
2	よかった	52	37.4
3	どちらともいえない	1	0.7
4	あまりよくなかった	0	0.0
5	まったくよくなかった	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		139	100.0

- ・行きたい講座に行けない生徒も何名かいたが、別の講座に参加し満足できた。
- ・丁寧な準備、対応をしていただき、体験を入れて生徒の興味を引きながら分かりやすく説明してもらえた。
- ・自分の興味・関心に合わせて内容を選定できるので、キャリア教育の一環として非常に有用だと感じた。
- ・普段では体験できない「将来の夢」につながることを体験できることは素晴らしいと思った。
- ・一つの学校の中に複数の学科があり、選択したものの以外にも沢山紹介していただき生徒の視野が大きく広がった。
- ・申込みをした講座内容と実際の当日の内容に差・違いを感じた。
- ・ほぼ説明のみの学校から体験重視の学校まであり、実際当日にならなければわからない要素が多い。
- ・一部の専門学校の訪問が、生徒が毎年満足していないので残念に思う。忙しいのは十分に承知しているが、希望の学科についてももう少し深く学べるようなプログラムを希望する。

問2 申込みから受講までの手続きはいかがでしたか

項 目		人数	%
1	特段の支障はなかった	89	64.0
2	支障は無かったが改善してほしいところがある	42	30.2
3	支障があったので改善してほしい	7	5.0
*	無回答	1	0.7
合 計		139	100.0

- ・講座決定のFAXに連絡不要や要連絡等の記載がありよかった。

- ・あらかじめ受講不可日がわかっており、受入可否の連絡もスムーズだったので、滞りなく手続きをすすめることができた。
- ・一覧が分野に分かれ内容も書かれているので、どの講座が合っているのか選択しやすいが、受講不可となった場合、次の希望、次の希望と全生徒が決定するまで授業が次の段階に進めなかったのが一苦勞であった。
- ・講座の決定まで時間がかかり、グループ内での事前学習などが不十分のままでの受講となってしまった。

問3 本講座の申込みと同時に、他の団体等の体験講座も申込みされていますか（複数回答）

項	目	人数	%
1	次世代人材職業体験講座のみ申込み、受講している	114	80.9
2	他団体の体験講座も申込み、受講している（企業の講座）	8	5.7
3	他団体の体験講座も申込み、受講している（大学等教育機関の講座）	14	9.9
4	他団体の体験講座も申込み、受講している（その他の講座）	4	2.8
*	無回答	1	0.7
合 計		141	100.0

- ・教育大学、自衛隊を訪問した。
- ・専門学校訪問の前日に職場(企業) 訪問を実施した。
- ・Kitaraにおいてバックヤード見学をさせてもらった。
- ・札幌地方裁判所、UHBに行った。
- ・白い恋人パーク、雪印メグミミルク酪農と乳の歴史館、コカ・コーラ工場見学、STV見学

問4 来年も職業体験を行うとしたら、本講座を利用しますか

項	目	人数	%
1	ぜひ利用したい	98	70.5
2	できれば利用したい	36	25.9
3	あまり利用したくない	1	0.7
4	利用しない	1	0.7
*	無回答	3	2.2
合 計		139	100.0

- ・前年度の3学期から生徒は動いているので、4月から受付というのは遅く、タイミングが合わないと感じている。
- ・学年ごとに修学旅行の行程の改善を生かしたコース選定のため、毎年の利用とはならない場合がある。
- ・次年度の計画がまだ決まっていないのでわからない。
- ・閉校に伴い、来年度の実施ができず残念。

問5 ご意見、ご要望

- ・専門学校への勧誘は中学生には辛いと感じた。
- ・5月という早い時期に修学旅行を開催する学校もあるので、4月以前の早い段階での受入可能な学校や日にちがわかり受付をスタートさせてもらえると大変助かる。
- ・学校によっては当初予定していた体験ができず、校舎見学で終わったところもあったので、可能な限り体験できるようにお願いしたい。
- ・受講不可の理由を知りたい。
- ・出前（出張）講座があれば検討したい。

令和元年度次世代人材職業体験推進事業
札幌市内の参加中学校に対するアンケート集計結果

問1 当講座を利用していかがでしたか

(1) 担当された貴校教員の皆様にとっていかがでしたか

項	目	人数	%
1	とてもよかった	9	100.0
2	よかった	0	0.0
3	どちらともいえない	0	0.0
4	あまりよくなかった	0	0.0
5	まったくよくなかった	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		9	100.0

・多くの生徒にとって充実したものになったようでした。

(2) 受講した生徒さんにとってはいかがでしたか

項	目	人数	%
1	とてもよかった	9	100.0
2	よかった	0	0.0
3	どちらともいえない	0	0.0
4	あまりよくなかった	0	0.0
5	まったくよくなかった	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		9	100.0

・スケジュールの都合があるので、受入可否をもう少し早くいただけるとよい。

問2 申込みから受講までの手続きはいかがでしたか

項	目	人数	%
1	特段の支障はなかった	5	55.6
2	支障は無かったが改善してほしいところがある	3	33.3
3	支障があったので改善してほしい	0	0.0
*	無回答	1	11.1
合 計		9	100.0

問3 本講座の申込みと同時に、他の団体等の体験講座も申込みされていますか

項	目	人数	%
1	次世代人材職業体験講座のみ申込み、受講している	8	88.9
2	他団体の体験講座も申込み、受講している（企業の講座）	0	0.0
3	他団体の体験講座も申込み、受講している（大学等教育機関の講座）	1	11.1
4	他団体の体験講座も申込み、受講している（その他の講座）	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		9	100.0

問4 来年も職業体験を行うとしたら、本講座を利用しますか

項 目		人数	%
1	ぜひ利用したい	7	77.8
2	できれば利用したい	2	22.2
3	あまり利用したくない	0	0.0
4	利用しない	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		9	100.0

令和2年度次世代人材職業体験推進事業 札幌市外の参加中学校に対するアンケート集計結果

(令和2年12月末現在)

問1 当講座を利用していかがでしたか

(1) 担当された貴校教員の皆様にとっていかがでしたか。

項 目		人数	%
1	とてもよかった	45	78.9
2	よかった	12	21.1
3	どちらともいえない	0	0.0
4	あまりよくなかった	0	0.0
5	まったくよくなかった	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		57	100.0

(2) 受講した生徒さんにとってはいかがでしたか

項 目		人数	%
1	とてもよかった	46	80.7
2	よかった	10	17.5
3	どちらともいえない	1	1.8
4	あまりよくなかった	0	0.0
5	まったくよくなかった	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		57	100.0

- ・どの講座も生徒たちから好評でした。特に実習を伴う内容については、担当した本校教諭からもとても良かったと例年以上に高評価だった。
- ・コロナ禍でありながら、生徒の興味の持てるお話や実習をさせていただき、大変満足しているようだった。
- ・今年は新型コロナの影響で体験に制限があり、校内案内がメインの学校があった。
- ・受け入れ校の方々がとても親切で緊張をほぐしてもらいながら受講できた。
- ・講座によっては座学が多く、もっと体験をたくさんしたいという声があった。
- ・対応していただいた方が本当に丁寧で笑顔でとても気持ち良かったし、内容もとても勉強になった。
- ・自分の進路について考えるきっかけとなったり、やはりこの職業につきたいという気持ちを強くした生徒もいた。

問2 申込みから受講までの手続きはいかがでしたか

項 目		人数	%
1	特段の支障はなかった	47	82.5
2	支障は無かったが改善してほしいところがある	6	10.5
3	支障があったので改善してほしい	3	5.3
*	無回答	1	1.8
合 計		57	100.0

- ・専門学校からの受入可否の回答がいつ頃になるのか見通しを教えてください。
- ・約2週間回答がないうえに受講不可ということで事前準備に支障をきたした。不可ならばすぐに返事がほしい。
- ・今回は10月だったので余裕はあったが、4月の申込みは慌ただしさがある。修学旅行で利用する時には、3月からの申込みが可能だと5月の修学旅行に余裕をもって組むことができる。
- ・持ち物について、統一した記載内容を設けてもらいたい。
- ・受講時間の抑え方が中学校と専門学校で異なっていたので、再調整が必要になった。

問3 事前学習や事後学習の実施状況や内容についてお聞かせください

(1) 本講座の利用の際に、学校で事前学習や事後学習を行っていますか

項 目		人数	%
1	事前、事後とも実施	49	86.0
2	事前学習を実施	2	3.5
3	事後学習を実施	3	5.3
4	どちらも行っていない	3	5.3
*	無回答	0	0.0
合 計		57	100.0

(2) 事前学習を行っている学校は、事前学習の内容と学習に充てているおおよその時間数を教えてください

項 目		人数	%
1	1時間～3時間	35	68.6
2	4時間～6時間	9	17.6
3	7時間以上	7	13.7
*	無回答	0	0.0
合 計		51	100.0

- ・グループ分け、質問事項の検討、専門学校までの公共交通機関や所要時間等調べ。
- ・働くことに対する意義、職業調べ、マナーについて。
- ・自分達が行く学校で取れる資格、主な進路先や就職先、授業の内容など。

(3) 事後学習を行っている学校は、事後学習の内容と学習に充てているおおよその時間数を教えてください。

項 目		人数	%
1	1時間～3時間	25	48.1
2	4時間～6時間	16	30.8
3	7時間以上	11	21.2
*	無回答	0	0.0
合 計		52	100.0

- ・学習した内容を個人で新聞にまとめる。
- ・反省、礼状、作文を実施した。
- ・体験した講座の内容、質問内容とその返答、学校紹介をレポートにまとめる。

問4 本講座の申込みと同時に、他の団体等の体験講座も申込みされていますか（複数回答あり）

項	目	人数	%
1	次世代人材職業体験講座のみ申込み、受講している	53	93.0
2	他団体の体験講座も申込み、受講している（企業の講座）	1	1.8
3	他団体の体験講座も申込み、受講している（大学等教育機関の講座）	2	3.5
4	他団体の体験講座も申込み、受講している（その他の講座）	1	1.8
*	無回答	0	0.0
合 計		57	100.0

- ・えこりん村でSDGS（持続可能な開発目標）の学習をした。
- ・地域の企業
- ・私立大学
- ・大学の模擬講義、キャンパスの見学。

問5 来年も職業体験を行うとしたら、本講座を利用しますか

項	目	人数	%
1	ぜひ利用したい	47	82.5
2	できれば利用したい	10	17.5
3	あまり利用したくない	0	0.0
4	利用しない	0	0.0
*	無回答	0	0.0
合 計		57	100.0

- ・僻地の学校においてはこれほど生徒が興味関心を持って学べる体験はなかなかないので来年も利用したい。
- ・とても良い内容であったため、来年度もぜひ利用したい。
- ・次年度も本校の取り組みにも継続的に入れるように引き継ぐ。

問6 新型コロナウイルス感染症対策に関して各専門学校では、マスクの着用、手指の消毒、3密を避けるなどの対策を講じていますが、さらに対応を求める事項はありますか

- ・換気
- ・今回修学旅行に出発した後に専門学校からコロナに感染した生徒が出て急遽断られたことがあった。早めの連絡体制など何らかの対応策を立案してほしい。

問7 ご意見、ご要望

- ・看護系の講座がもう少し多くあるといいと思った。
- ・多くの講座を2時間より長くしてもらえるとよりたくさんの方の体験できてよいと思った。

令和 2 年度次世代人材職業体験推進事業 職業体験講座を受講した中学生へのアンケート結果

【調査実施中学校数： 12校】（受講地別：札幌 6校・函館 2校・旭川 2校・北見 2校）

【調査回答中学生数： 434名】

Q1：受講した講座はどのように選びましたか？（1つ選んでください）

①自分が興味や関心を持っている職業に関する講座を受講した	60.2%
②受講した講座は自分が興味や関心のある講座ではなかった（希望の講座がなかった、受講できなかったなど）	11.3%
③これまで職業などを深く考えたことがなかったので、面白そうだった講座を選んで受講した	22.2%
④その他	6.3%

（自由回答）

- ・福祉の仕事に興味があり、普段どのような仕事をしているのか気になった
- ・自分が「料理をしたい」「料理をしてみたい」という気持ちで選んだ
- ・自分の将来の夢に役立つ講座だと思ったから。将来の夢の職業について少しでも何か学びたいと思った
- ・将来の夢とは別に、これから体験する機会がない職業を選んだ
- ・医療系の仕事に興味があった。医療関係の仕事に就きたいと思っている
- ・自分の将来の夢や仕事などを決めていないため、進路の選択肢を増やしておきたかった
- ・以前にパティシエに興味があったので
- ・将来、漫画家になりたいから選んだ。将来のために選んだ
- ・将来、専門学校へ行こうと考えているので、今後の参考も兼ねて選んだ
- ・適当に選んだ
- ・アニメでしゃべっている作り方を知りたかった
- ・最初は興味がなかったが、行ってみると楽しかった
- ・家で犬を飼っていて、動物についてもっと知りたいと思った
- ・人間と動物の医療ではどのような違いがあるのか知りたかった
- ・受講した講座の仕事に興味はあったが将来目指しているものではなかったから、今回行ってみようと思った
- ・空港ではどのような仕事がありどのような仕事をしているのか気になっていた
- ・空港業務というなかなか体験できないと思う講座を選んだ
- ・興味のある講座が受講できなかった。興味のある講座がなかったから、少しでも興味のあるものにした
- ・主にコミュニケーションについて学ぶ講座だったので、今からでも取り入れることができると思い選択した
- ・将来、医療関係の仕事に就きたいと思っており、受講する講座に興味があった
- ・ホテルの仕事には受付以外にどのような仕事があるのか知りたくて受講した
- ・将来の夢が介護士だから
- ・興味を持ったほかに将来の自分に役立ちそうだったから
- ・看護師になりたいので病院関係の講座を選択した
- ・子どもに関心があった
- ・先生が決めた。決められていた
- ・自分の持っている夢が一番近かった
- ・今の社会でITの仕事であぶれることはないと思った
- ・希望していた講座ではなかったが、受講したことでその仕事にも興味を持った
- ・自分が将来この職業に就きたいと思う講座があった
- ・小さな頃からの夢だった仕事に関する講座を希望した
- ・コロナで違う講座（学校）になった

Q2：講座を受講した感想をお聞かせください

(1) 講座の内容はいかがでしたか？ (1つ選んでください)

①よく理解できた	69.1%
②理解できた	29.5%
③あまり理解できなかった	0.7%
④全然理解できなかった	0.2%
⑤その他	0.5%

(自由回答)

- ・料理の作り方を一からわかりやすく教えてもらった。
- ・ていねいに作り方を教えてくれた
- ・わかりやすく説明してくれたので理解できた (複数回答)
- ・所々難しい話はあったが、どんな学校に行ったら看護師、助産師、保健師などの資格が取れるか知ることができた
- ・実習で普段あまり使わない道具があって面白かった
- ・動画や実際に行っていることを細かく説明してくれて、とてもわかりやすかった
- ・どのようにして料理を作っているのかわかった
- ・とれる資格の話などが聞いて良かった
- ・実際に使わせてもらって道具の使い方などを理解することができた
- ・先生がお手本を見せながらわかりやすく説明してくれたので、作り方がよくわかった
- ・スライドやパンフレットをもとに先生が勉強する内容などを詳しく説明してくれたので、わかりやすかった
- ・どのようにアニメを作っているのか、また、どのように映像に声をあてているのかなどがわかった
- ・声優を目指すに当たって今からでも努力できる場所が知ることができて良かった。自分の声を鍛える方法がわかり、とても参考になった
- ・仕事の内容や大切にしていることなどがわかった
- ・実際の出来事を話して説明してくれたので想像しやすかった
- ・動物に対する接し方から医療機器の説明まで幅広く教えていただけて、知識が少し増えた
- ・細かいところまでしっかり教えてくれて、将来とても役に立つと思った
- ・体験があったのでとてもわかりやすかった
- ・実際に見て学んだり体験できてわかりやすかった。体で覚えることができた
- ・説明のほかに接客の体験もできてとても良かった
- ・専門学校が学生がいて自分も行きたいと思った
- ・なぜこうするのか、こうするとどうなるのかという説明がなく期待外れだった
- ・難しすぎた
- ・わかりやすくて、できるたびにうれしくなった
- ・わかりやすく教えてくれたり質問に答えてくれて、とても勉強になった

(2) 受講時間（始まりから終わりまで）はどのくらいでしたか？

（1つ選んでください）

①60分未満	3.8%
②60分以上90分未満	18.9%
③90分以上120分未満	43.2%
④120分以上	34.1%

【受講時間別】

①60分未満	長かった	0.0%
	ちょうどよかった	68.8%
	短かった	31.3%
	その他	0.0%
②60分以上 90分未満	長かった	3.8%
	ちょうどよかった	87.3%
	短かった	8.9%
	その他	0.0%
③90分以上 120分未満	長かった	5.6%
	ちょうどよかった	76.7%
	短かった	17.8%
	その他	0.0%
④120分以上	長かった	8.4%
	ちょうどよかった	78.3%
	短かった	12.6%
	その他	0.7%

(3) 受講時間はいかがでしたか？

（1つ選んでください）

①長かった	6.2%
②ちょうど良かった	78.5%
③短かった	15.0%
④その他	0.2%

（自由回答）

- ・もう少し長くして、もっと教えてほしかった。もっと時間があるならたくさん学びたかった
- ・実習と講座を分けていて、時間がちょうど良かった
- ・作ったり食べたりする時間もあってちょうど良い時間だった
- ・意外と早く終わったと感じたが、それほど楽しかったんだと思う。もっといたいと思うほど楽しかった。
- ・体験や質問などがちょうど良く行えた
- ・興味のある分野を詳しく知ることができたのはすごく楽しく、あっという間に感じた
- ・楽しんでいるうちに時間が過ぎていた
- ・もう少しじっくり体験したかった
- ・あっという間だった。思った以上に短く感じた。最初は長いと思っていたがあっという間だった
- ・しっかり最後まで集中できた。最後まで集中できる長さだった
- ・少し難しい話が多かった。少し難しい単語が出てきたが、そのたびに説明してくれた
- ・実習がもっとあってほしかった
- ・もっと色々な体験がしたかったし、専門学校の先生や生徒と交流したかった
- ・いろいろな機材を見せてくれた

(4) 職業や仕事に対する考えに変化はありましたか？（複数回答可）

①受講する前よりも職業や仕事についてもっと知りたくなった	29.6%
②将来、どんな職業や仕事をしたいか考えるようになった	29.9%
③職業や仕事について調べたり情報を集めたりしている	4.9%
④興味がない職業の講座を受講したが、もっと知りたくなった	4.5%
⑤今回体験した職業とは別の職業についても体験してみたい	21.6%
⑥これまでと変わらない	8.9%
⑦その他	0.7%

(自由回答)

- ・医療系の仕事に就く大変さや難しさを知り、医療系の仕事に就けなかったときのことを考えたり、他の職業も気になった
- ・いろいろな仕事を見てから自分の将来のことも考えて、自分に合った仕事をみつけない
- ・前から興味を持っていて本当にこの職業でいいのかと迷っていたけれど、いろいろ学べて自信がついてきた
- ・料理についてもっと知りたいと思った
- ・今回の体験を通してたくさん学んだがまだまだ学べると思うので、調べて知ろうと思った
- ・仕事ってすごいなと思った
- ・声優の大変さや楽しさを知ることができた
- ・何をするかは決めていないが、考える材料にはなりそうだ
- ・パンフレットなどを見て、より将来の職業に関心を持つことができた
- ・パティシエの印象が変わった。とても楽しそうで良いと思った
- ・子どもと関わる仕事にもたくさん種類があることを知り、もっと調べたくなった
- ・知らない仕事をたくさん教えてもらったので、他の仕事についても知りたくなった
- ・職業選択の幅を広げることができた
- ・将来について少しは考えていたが、もっと行動に移せるようになった
- ・自分があまり知らない職業についても体験したい
- ・自分が希望する職業の体験ではなかったが、いろいろな知識を学ぶことができた
- ・興味を持っていない職業の講座を受講したがもっと知りたくなった
- ・どんな仕事も大変だと思った
- ・将来、子どもと関わる仕事に就きたいと思った
- ・高校進学参考になった
- ・今までも考えてきたがもっと考える機会になった
- ・受講してみて自分に合っていると感じる点があった
- ・自分が知っている仕事は少ないと思った
- ・オープンキャンパスに行こうと思った

Q3：将来、やりたい職業、興味のある職業はありますか？（1つ選んでください）

①ある	65.0%
②ない	31.0%
③その他	4.0%

(自由回答)

- ・まだ、あまり考えていない
- ・何かしらの仕事をしてみたいけど、まだ決めていない
- ・高校に行ってからでないとイメージできない

Q4：Q3で「ある」と答えた方は、どんな職業ですか？その理由は何ですか？

(1) どんな職業ですか？ (2) 理由は何ですか？

- ・大工・建築（家などを設計し、作って、人を喜ばせたい。お父さんの仕事。小さい頃からの憧れ）
- ・看護師・小児科の看護師（いとこが看護師。人を助けたい。ドラマを見てあこがれた。身内が病院に運ばれたときに優しく声をかけてくれた。苦しんでいる人を少しでも笑顔にしたい。たくさんの人と関わりたい。親が看護師。人に役立つ仕事がしたい。入院したときにかっこいいと思った。子どもが好き。将来的に安定していると思う。入院したときに安心させてくれた）
- ・人のことを助けられるような職業（困っている人を見かけても話しかける勇気がなく、ただ見ているだけなので、将来はそのような仕事をしたい）
- ・漁師（お父さんがやっているのだから、手伝いたいと思った。親の後を継ぎたい。身内が漁師）
- ・美容師（人の役に立ちたい。みんなの髪の毛を切って喜んでもらって笑顔になってほしい。髪をしばったり結ぶのが好き。体験してみて興味を持った。やりがいのある仕事だと思った）

- ・助産師（生活リズムが不安定になりやすい職業かもしれないが、出産の手伝いやその後のケアなどやりがいを感じられると思った。医療現場で働いて一人でも多くの人を助けたい。赤ちゃんや子どもに関わる仕事がしたい）
- ・アニマルシェルター（動物が好きなので、たくさんの動物にふれたいと思った）
- ・調理師（自分の作ったものを好きになってくれる人が増えてほしい。料理をしているときに楽しいから。家でも色々な料理をつくっている。食べることは大切だから。子どもの頃からの夢）
- ・公務員（地域のために働ける仕事に就きたい。たくさんの人の役に立ちたい。安定した収入を得たい）
- ・海上保安官（海上保安官の人とお父さんにやってみない？と言われて）
- ・ゲームグラフィックデザイナー（絵を描くこともゲームをすることも好き）
- ・ゲームクリエイター（ゲームが好き）
- ・病院事務（大変そうだけど楽しそうだと思った。医療についてもっと知りたいから）
- ・飼育員・海洋生物と関わることのできる仕事（色々な動物がいることを教えたい）
- ・イラストレーター、アニメーター（絵を描くことが好きなので、好きなことや趣味を仕事にしたいと思った）
- ・漫画家（人が笑顔になるようなものを描きたい）
- ・電気工事士（兄がやっているのを見ていいなと思った）
- ・子どもに関わる仕事（子どもとふれあっている時間が楽しい）
- ・音楽関係（音楽が好き）
- ・声優・ナレーター（誰かと話したり声を使って演技をするのが好き。アニメがすき。声優の演技がかっこいいと思う。声だけで表現するのがすごい）
- ・警察官（人を安全にして役立ちたい。人を助ける仕事がしたい。子どもの頃から憧れていた）
- ・保育士・幼稚園教諭・子どもに関わる仕事（子どもが好き。自分が子どもだったときに保育園の先生が優しくかった。少しでも多くの子が保育園に入れるようにしたい。祖母が保育士で私もなりたかった。母が保育士で子どもが好き。世話をするのが得意。体力もあり子どもと触れあうのが好き。やりがいのある仕事だと思った。幼稚園のときの先生に憧れた）
- ・教育者、教師（中学校に憧れの先生がいる。先生という仕事に憧れている。小学校の先生が好きだった。知識や教訓を人に伝えたい。特に地理が好き。人に教えるのが好きで新しいことを知るのが楽しい）
- ・ドッグトレーナー（受講してこのような仕事をしてみたいと思った。小学生の時に調べて興味を覚えた）
- ・獣医（受講してこのような仕事をしてみたいと思った。命の危険がある動物を少しでも救いたい）
- ・医療系・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・救急救命士・放射線技師・歯科衛生士（人の役に立ちたい。家族に勧められた。仕事をしている姿がかっこよかった。患者さんを助けたい。ケガをしたときにリハビリでサポートしてくれた。親に勧められた。人を助ける仕事がしたい。たくさんの人を助けたい。矯正を担当した衛生士が優しくかった。これからの時代、医療系の職種が必要とされると思う。実際に見たことがあるから）
- ・理工系の仕事（ものを作るのが好きだから、開発してみたいから）
- ・ウェディングプランナー・ブライダル関係（自分たちで人の幸せをつくっていく仕事に興味を持った。人と関わるのが好き。人を笑顔にする仕事に就きたい。チャペルやドレスを見て興味がわいた）
- ・デザイナー・WEBデザイナー（楽しそう。デザインが好き。絵を描くのが好き）
- ・パティシエ（趣味を仕事にするなら。料理が好き。たくさんの人を笑顔にしたい）
- ・ユーチューバー（有名になりたい）
- ・芸人（有名になりたい）
- ・ミュージカル俳優（劇を観て感動した）
- ・ショップ店員（身近な職業でお客様に気さくに話しかけて楽しそう）
- ・医師・救急救命医・法医学者（人を助ける仕事をしたい。憧れ。人の役に立つ仕事に就きたい。人体について知りたい。お金に困らない）
- ・エンジニア（電気やロボットをつくったり動かすのが好き）
- ・システムエンジニア（パソコンが好き。型にはまらない職業にやりがいを感じる）
- ・測量士（体験したことがありもっと学びたくなった）
- ・インテリアコーディネーター（建築がすき）
- ・パン屋さん（パンが好き）
- ・IT系（日々の生活を陰で支えている仕事に憧れる）
- ・ホテル従業員（今回の体験で興味を持った）
- ・銀行員（自分の理想の条件）
- ・土木関係（興味がある）
- ・農家（家が農業をしている）

- ・動物介護士（動物と関わる仕事がしたい）
- ・介護士・介護福祉士（高齢者を助けたい。おじいちゃんおばあちゃんのお世話が楽しかった。やりがいのある仕事だと思った）
- ・サッカー選手・野球関係の仕事（サッカーが好きで観客を楽しませたい。野球が好き）
- ・プログラマー（自分の好きなことをやりたい）
- ・会社経営者・カフェ経営（やってみたい。経営に興味がある。たくさんの人に喜んでもらいたい）
- ・税理士（向いていると言われた）
- ・ゲームの選手、プロゲーマー（好きなことを仕事にしたい）
- ・イラストレーター（絵を描くのが好き）
- ・海外での仕事（他の国での仕事に興味がある）
- ・スポーツトレーナー（スポーツが好き）
- ・外国語が使える仕事（語学を学ぶことが楽しく、その語学力を活かしたい）
- ・薬剤師（薬に携わって人の命を助けたい。人の役に立つ仕事をしたい）
- ・車関係・運転手（車が好き）
- ・インテリアデザイナー（模様替えが好き）
- ・鉄道関係、駅員（小さい頃に憧れた。助けてもらったことがある）
- ・コンビニ店員（コンビニで働いてみたい）
- ・CA・グランドスタッフ（子どもの頃からカッコいいなと思っていた）
- ・木工業（家業のため）
- ・自動車整備士（お父さんの仕事）
- ・競輪選手（自転車が好き）
- ・プロレスラー・プロの総合格闘家（憧れの選手がいる）
- ・図書館司書（読書が好き）
- ・芸能マネージャー・マネージャー（裏方の仕事をしてみたい。人の役に立ちたい）
- ・消防士（人を助ける仕事がかっこいい）
- ・生物学者（生物が好き）
- ・ガンプラホビーショップ（オリジナルのガンプラをつくってみたい）
- ・トリマー（動物が好き。実際に見て）

Q5：職業体験講座を受講してみて、「もっとこうしたらいい」と思うところがありますか？

- ・一つのものをつくるのではなく、ほかのお菓子も少しずつ作ったら楽しさや関心が出ると思った
- ・体験の時間がもう少しあったら、ゆっくり体験ができて良かった
- ・時間がもっとほしいと思った。もっと長めの方が良かった
- ・専門学校の先生だけでなく生徒もいた方がいいと思う
- ・時間があれば在校生の人からも話を聞きたいと思った
- ・映像で説明してほしい
- ・もう少しいろいろな体験をしたかった。体験できることを増やしてほしい
- ・もっと体験の時間を増やしてほしい。実技の時間をもう少し増やしてほしい
- ・体験の際にもう少し説明を加えてほしい
- ・もっと学校の中を見学したかった。授業の様子を見学してみたい
- ・職業についての知識だけでなく、なり方やなった後のことも知ることができるとありがたい
- ・体験をさせてほしかった。見学だけでなく体験をさせてほしい
- ・余裕を持った時間配分をしてほしい
- ・もう少し中身のある体験をさせてほしい。中身が薄すぎた

Q6：思ったことを自由に書いてください。

- ・実際にお菓子をつくることも楽しかったし、先輩の方々が今までどんなものをつくってきたのか、映像だったけどとてもわかりやすかった
- ・家の中を再現して看護の練習をするというのはとても良いと思った。赤ちゃんを持つ体験をして赤ちゃんの持ち方がわかったし、赤ちゃんの重さを知ることができた
- ・図書館を見たとき、きれいで使いやすいと思った

- ・今回の体験で色々なことを学び、興味を持った
- ・看護学校はとて厳しく大変なところだと思っていたが、今回の見学を通して、大変だったり厳しいところはあるが、楽しいところだとも思った
- ・今回の講座を受けて、もっと仕事と向き合いたい
- ・この体験を通じて、たくさんのことを教えてもらった
- ・介護の仕事は大変そうなイメージがあったが、介護の仕事にも少し興味もてた
- ・自分が興味を持っていることが思っていたより難しいことがわかって、改めて自分の夢を見直すことができた
- ・看護はとて難しい仕事だと思っていたけど、各学校で教えられたことを活用すると良いことがわかった
- ・作っているときや食べているときのワクワクがあってとても楽しかった
- ・体験を通して料理についてもっと知りたくなった
- ・高校に入ってからの次の進路、また、将来の進路について深く考えるきっかけになった
- ・将来について色々な選択肢を持つことができてよかった
- ・体が不自由な人でも楽しめるスポーツがあったり、快適に暮らせる道具がたくさんあったりなどの工夫がしてあって、ほかにもいろいろなことを知りたいと思った
- ・将来の進路や職業に活かしたいと思った。とても貴重な体験だった
- ・調理を体験してみて、学校でもこんな本格的な料理を作れることに驚いた。お客さんを呼んで料理を食べていただく行事が本当のお店のものでやってみたいと思った。前から料理の仕事に興味があったので自分の将来についてしっかり考えるきっかけになった
- ・講座を受講して仕事内容や活動内容がよくわかって勉強になった
- ・すごく楽しむことができた。今後の進路などを考える良いきっかけとなった
- ・いろいろなことを楽しく学ぶことができた
- ・日常では余り体験できない職業なので、すごく良い体験になった
- ・説明がていねいでとてもわかりやすかった
- ・もっと長く見学したかった
- ・たくさん貴重な体験ができてとても思い出に残った
- ・動物看護も視野に入れて、さらに先の進路も決めたいと思った
- ・将来についてより深く考えることができ、人を笑顔にできる仕事のすばらしさを改めて知ることができた
- ・プログラミングの体験を通じて、さらにパソコンなどに興味を持った
- ・自分の夢とは違う体験だったが、他の職業にも興味を持つことができた
- ・スポーツをしているので、予防の仕方などを知ることができてよかった
- ・社会人になると大変なんだと思った
- ・すべてが初めてのことで楽しかった
- ・美容師に興味があったが、今回体験してみて「楽しい」だけでなく「大変」ということも学んだ
- ・質問の時も色々な話を交えて、専門的なことを楽しくわかりやすく教えていただいた。知らなかったこともたくさんあったので将来的にもすぐためになった。
- ・今回の体験は非常に良いものだった。これをもとに自分の夢に向かって勉強したい
- ・コロナの関係でアフレコ体験ができなかったが、演技実習を見学することができた。演技に感動して、さらに声優になりたいと思った
- ・これまで知る機会がなかった環境問題について知ることができて良かった
- ・ゲームについてたくさん教えてもらったので、ゲームに対する興味が増した
- ・学校内の説明で飛行機の一部やホテルの客室などがリアルにつくられていて驚いた
- ・趣味でお菓子づくりをしていて、この体験を通してよりお菓子づくりについて知ることができた
- ・職業について考えるようになった。色々な職業を調べ、自分が将来やりたい職業を見つけたいと思った
- ・教えてくれた人たちがやさしかったのでリラックスして受講でき、とても学びになった
- ・コロナの影響があったにもかかわらず明るく迎えてくれた
- ・いつもできない経験ができて将来を考えるきっかけになった
- ・実際に気になっている仕事について体験させてもらい楽しく、知らないことを知ることができた
- ・理解するのが難しかった
- ・もともとなりた職業でもあったので、詳しく知ることができて進路について考えることができた
- ・高校生になったらオープンキャンパスに行ってみたい
- ・いろいろな職業を体験して将来の仕事を考えていきたい

令和元年度次世代人材職業体験推進事業 参加専門学校に対するアンケート集計結果

問1 貴校の受入態勢から考えて、今年度、北専各連からの申込件数はどうですか

項	目	人数	%
1	とても多い。断った申込みもかなりあった。もっと少なくて良い	3	3.9
2	多くて断った申込みもあったが、おおむね受入が可能な範囲に収まっている	9	11.8
3	断った申込みもあったが、総じては調整が可能な範囲での申込件数である	23	30.3
4	ちょうど良い申込件数である	20	26.3
5	もっと多くの申込みがあっても良い	17	22.4
*	申込み無し	4	5.3
合 計		76	100.0

- ・概ね受け入れできたが、学校行事が増加傾向にあり受け入れ人数のほぼ上限に達している。
- ・時期的に早期すぎる申し込みについては、対応の目途が立てられず断るケースもあった。

問2 申込の処理、受入可否の決定、講座の準備、開催などに対応する業務量についてはどうですか

項	目	人数	%
1	とても多い。業務量を軽減する必要がある	6	7.9
2	時期的には多いときがあるが、対応が可能な範囲に収まっている	36	47.4
3	処理できる範囲の業務量である	26	34.2
4	調整がつけば、もっと多くの申込みに対応できる	6	7.9
*	申込み無し	2	2.6
合 計		76	100.0

- ・本事業を通して実施後の中学生からは、様々な職業を知ることができ今後の進路の参考になったという声がたくさん寄せられている。件数が多く時には負担に感じる時もあるが、中学生のお役に立てていることにやりがいを感じている。

問3-1 本事業以外でも中学校からの要請で中学生を受け入れていますか

1 はい	27	2 いいえ	49	合計	76
------	----	-------	----	----	----

問3-2 中学校から直接、職業体験の申込みがあった場合、どのように対応していますか

項	目	人数	%
1	中学校と調整の上、直接、受入れしている	17	22.4
2	本事業のことを考え、北専各連に申し込むよう伝えている	46	60.5
3	直接受け入れる場合もあるし、北専各連に申し込むよう伝える場合もある	12	15.8
*	申込み無しほか	1	1.3
合 計		76	100.0

- ・連合会へ申込みする前に受け入れの伺いをする中学校が数校あった。
- ・前年度に申し込みがあった中学校は、必ずリピータ校として申込みがある。

問4 以下のことについて、今年度は昨年度以前に比べてどうですか

項 目	増えている	変わらない	減っている
1 本事業での申込件数	24	30	19
2 本事業での申込人数	25	26	22
3 専門学校へ直接申込みのある件数	8	43	22
4 専門学校へ直接申込みのある人数	6	43	24
5 受入件数は全体としては	27	30	16
6 受入人数は全体としては	27	27	19

・校名周知という意味で受け入れを行っているが、内容的にも評価されてきている。

問5 申込があってから受入可否の決定、回答までの時間は専門学校によってかなり違いがあります。貴校の場合は、申込受付から受入可否の回答まで、休日を除いてどの程度の期間が必要ですか

① 開催日に関わらず、申込み が あってから	2～3日	1週間～10日	2～3週間	3週間以上
	29	27	14	1
② 開催日から逆算して	60日前まで	20～30日前まで	10～20日前まで	10日前まで
	10	21	4	0

- ・開催日が1～2か月以内のものは、なるべく早く回答を出すように心掛けている。逆に開催日が3～4か月、またそれ以上のものは回答するのに時間を要している。（学校の授業や担当講師のスケジュールの関係）
- ・進路ガイダンス等の関係で回答が遅くなってしまったことが多々ある。
- ・状況によっては1週間程度で回答できる場合もあるが、半年前からの申込みもあり数か月間可否の返答ができなかった。たとえば、申込みを実施希望日の3か月前から受付開始などのルールを作ってはどうか。

問6 来年度以降、本事業への対応についてどう考えていますか（複数回答可）

項 目	人数	%
1 申込件数が多く、授業等への影響、教職員への負担等から、多くの申し込みを断らざるを得ない	6	6.0
2 申込件数が多く、授業等への影響、教職員への負担等はあるが、かなりの申込に対応できるだろう	10	10.0
3 申込件数は、授業への影響、教職員の負担等を考慮しても、何とか対応できる	48	48.0
4 申込件数は多くはなく、もっと多く申し込まれても対応できる	14	14.0
5 中学校からの直接の申込みに対応しない（あるいは対応が減った）分、負担が軽減されている	3	3.0
6 直接申し込みを受けても、北専各連を経由しても、業務量にそれほど違いはない	12	12.0
7 中学校からの直接の申込みは、北専各連を通す割合を増やしていくつもりである	7	7.0
8 来年度は、本事業に参加しない（できない）予定である	0	0.0
合 計	100	100.0

問7 中学校からの申込件数を緩和する方法について、ご意見はありますか（複数回答可）

項 目	人数	%
1 個々の中学校が申し込む講座数を制限したほうが良い（例えば1校5講座までなど）	9	9.1
2 受講人員を集約して、少人数の申し込みを減らすべき（例えば1講座5人以上など）	11	11.1
3 少人数の申し込みであっても、複数の申込みをまとめて開催すれば、大きな支障にならない	35	35.4
4 生徒の興味や関心に沿った講座を受講させるため、少人数の申し込みであっても受け付けたほうが良い	44	44.4
合 計	99	100.0

- ・生徒の興味関心を優先した方が良いと思う反面、体験内容によって1～2名の開催だと難しかったりすることもある。申し込みがあった時点で、教員の負担等を考えて受入れを判断している。

問8 負担金の支払い方法についてどう考えていますか（複数回答可）

	項 目	人数	%
1	負担金が入ることが望ましいが、負担金の有無に関わらず、受け入れなければならない	52	61.2
2	各専修学校の受入実績に応じて負担金を支払ってほしい	25	29.4
3	受入に当たっての負担軽減のため、負担金の額を増やすべきだ	8	9.4
4	負担金の対象とならない申込みは、受入が難しい	0	0.0
	合 計	85	100.0

令和2年度次世代人材職業体験推進事業 参加専門学校に対するアンケート集計結果

(令和2年12月末現在)

問1 新型コロナウイルス感染症の影響のもと、貴校の受入態勢から考えて、今年度、北専各連からの申込件数はどうですか

項	目	人数	%
1	とても多い。断った申込みもかなりあった。もっと少なくて良い	0	0.0
2	多くて断った申込みもあったが、おおむね受入が可能な範囲に収まっている	9	11.0
3	断った申込みもあったが、総じては調整が可能な範囲での申込件数である	23	28.0
4	ちょうど良い申込件数である	20	24.4
5	もっと多くの申込みがあっても良い	25	30.5
*	申込み無し	5	6.1
合 計		82	100.0

- ・断った申込みはなかったが、件数は多かった。
- ・キャンセルが多数あった。
- ・コロナウイルス感染症防止のため、周囲の感染状況等から判断し、数件断った。
- ・今年度この事業は中止の判断をして欲しかった。実施するならリモートなど、他の形を検討するべき。
今年度は在学生の通常授業をするのが精一杯で来校者を対応する余裕も時間も正直なかった。
- ・年度当初は感染防止対策に苦慮したが、年度後半までにある程度の対策方法を実施し、かつ対応できたため例年同様の申込みに対応できた。

問2 申込の処理、受入可否の決定、講座の準備、開催などに対応する業務量についてはどうですか

項	目	人数	%
1	とても多い。業務量を軽減する必要がある	2	2.4
2	時期的には多いときがあるが、対応が可能な範囲に収まっている	31	37.8
3	処理できる範囲の業務量である	31	37.8
4	調整がつけば、もっと多くの申込みに対応できる	13	15.9
*	申込み無し	5	6.1
合 計		82	100.0

- ・医療関係の講座については準備に時間がかかるケースが多い。特にコロナの状況下においてはさらに対策に時間がかかっているのが現状。

問3 本事業以外でも中学校からの要請で中学生を受け入れていますか

項	目	人数	%
1	中学校と調整の上、直接、受入れしている	17	20.7
2	本事業のことを教え、北専各連に申し込むよう伝えている	47	57.3
3	直接受け入れる場合もあるし、北専各連に申し込むよう伝える場合もある	11	13.4
*	申込み無しほか	7	8.5
合 計		82	100.0

- ・中学校から直接、出向いての職業講話の依頼があった。
- ・旅行代理店からの相談があるが、旅行代理店のメリットのみと判断し断っている。

申請があってから受入可否の決定、回答までの時間は、専門学校によってかなり違いがあります。貴校の場合は、申込受付から受入可否の回答まで、休日を除いてどの程度の期間が必要ですか。

①	開催日に関わらず、申込みがあってから	2～3日	1週間～10日	2～3週間	3週間以上
		30	36	3	4
②	開催日から逆算して	60日前まで	20～30日前まで	10～20日前まで	10日前まで
		2	2	5	0

・担当者が不在の場合は日数を要してしまうが、できるだけ早期に返答するように心がけている。

問5 開催に当たり、新型コロナウイルス感染症への対応として、どのような措置を講じていますか（複数回答可）

	項 目	人数	%
1	対応する職員は、日ごろから感染リスクを増やさない行動を心がけている	78	20.3
2	開催に当たっては、全員が手指の消毒、マスクの着用を徹底している	80	20.8
3	会場は関係者の人数に応じて、従前よりも広めの会場を使用するようにしている	58	15.1
4	会場は窓を開けたり、空調を強めるなど換気に配慮している	78	20.3
5	参加者同士の接触を避けた内容の体験を行っている	59	15.3
6	教職員が担当する受講者数を昨年度に比べて減らして開催する場合がある	26	6.8
7	その他	6	1.6
合 計		385	100.0

- ・当日参加者の検温、靴底の消毒を行った。
- ・人数が多い場合は、複数グループに分け配慮をしている。
- ・使用した教室の消毒を実施し、加えて施設見学の際は学生教室等への立ち入りを制限し、学生と交わらないような安全な動線を確保した。
- ・入館者の体調チェックと名簿管理、使用機器の消毒。

問6 新型コロナウイルス感染症により、受入れにどのような影響が生じていますか（複数回答可）

	項 目	人数	%
1	休業などもあり自校生徒への教育に集中せざるを得ない状況があり、昨年度に比べて受入を断る頻度がました	6	3.1
2	校内の3密の回避など感染リスクを減らすため、昨年度に比べて受入を断る頻度が増した	4	2.0
3	休業などもあり自校生徒への教育に集中せざるを得ない状況があったが、昨年度と同様の受入れ体制となっている	38	19.4
4	校内の3密の回避など感染リスクを減らす体制を講じつつ、昨年度と同様の受入れ体制となっている	50	25.5
5	昨年度と変わらない	98	50.0
6	その他	0	0.0
合 計		196	50.0

- ・依頼数が減少し、参加者数も少なかったため学内の教育に集中する中でも対応することができた。
- ・感染防止に最大限務めたうえで、業界への理解と認知拡大のため、いただいた依頼は全て受け入れた。次年度もこの方針で取り組む予定でいる。
- ・コロナ禍での受け入れはリスクしか感じていないため、本当は全てお断りしたい。
- ・事業所等での中学生のインターンシップ受入が困難になったことにより、本事業への申し込みが増えたようであり、受入数の増加に繋がったと思われる。
- ・例年とは異なる実施内容や説明の工夫次第で、これまで以上に充実させられると感じた。

問7 **新型コロナウイルス感染症の影響が続いた場合、来年度以降、本事業への対応についてどのように考えてますか（複数回答可）**

項	目	人数	%
1	授業等への影響、教職員への負担等から、多くの申し込みを断らざるを得ない	13	14.9
2	授業等への影響、教職員への負担等はあるが、かなりの申し込みに対応できるだろう	30	34.5
3	申込件数は多くはなく、もっと多く申し込まれても対応できる	23	26.4
4	来年度は、本事業に参加しない（できない）予定である	2	2.3
5	その他	19	21.8
合 計		87	100.0

- ・授業等への影響、教職員への負担等はあるが、可能な範囲で申し込みに対応できるようにしたい。
- ・申込みは減ると思うが、申込みがあった中学校には、感染予防対策を徹底しながら受け入れを予定している。

問8 **新型コロナウイルス感染症の感染リスクを減らすため、一部の中学校から、中学校に出向いて本事業と同様の体験講座を開催できないか問合せがあります。このような取組への対応の可否はいかがですか**

項	目	人数	%
1	専門学校の所在市及び近隣市町村の中学校へ出向くのであれば、対応は可能と考えられる	43	52.4
2	道内の中学校へ出向くことが可能と考えられる	14	17.1
3	中学校へ出向くことは困難である	14	17.1
4	その他	11	13.4
合 計		82	100.0

- ・新型コロナウイルス感染症の対応として、札幌市への往来が規制されやすくなることが予測され、出向くことが困難となる可能性がある。
- ・道北は旭川、道東は釧路・北見、道央は札幌、道南は函館というようにそれぞれの専門学校が担当するのが理想的。
- ・職業・分野の講話などであればできる限り対応したい。ただし、実習などは現段階では不可である。
- ・道内の範囲においては高校へのガイダンスの日程と合えば可能で、常に受け入れできるという事ではない。
- ・自校であれば一定の消毒された環境でできるが、出向くとなると不透明感があり不安である。
- ・人員確保や日程調整が可能であれば積極的に受け入れ（出向く）する。
- ・コストがかかるものなので、事業として成立するのであれば出向くのも吝かではない。

